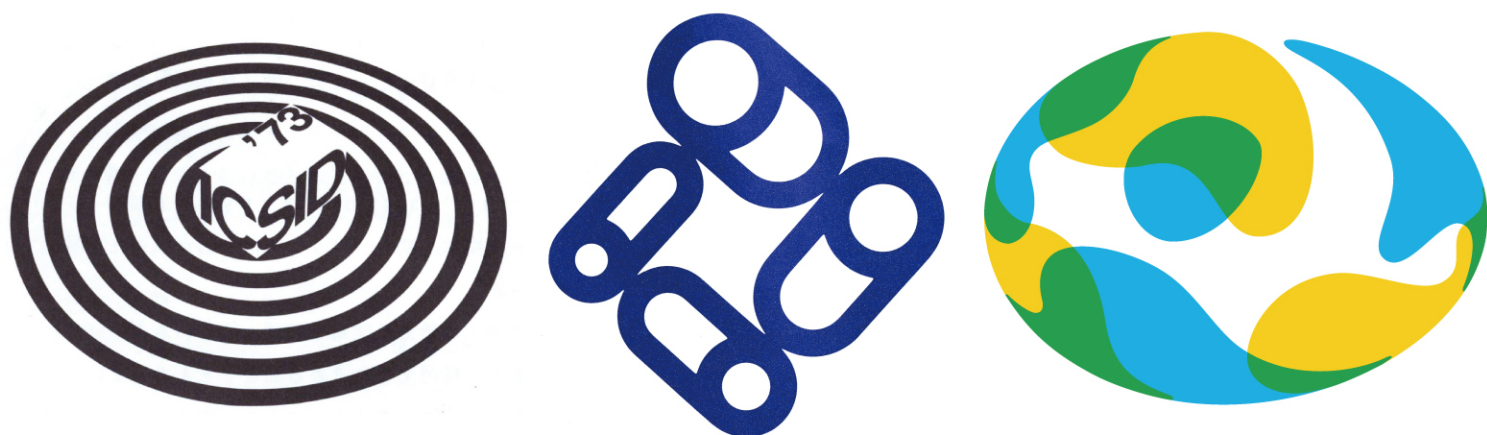




International
Forum for
Design Research



1973/1989 ICSID会議と Design Yearが残したものの

WDO世界デザイン会議東京2023 関連シンポジウム

2023年10月に東京で開催される「WDO世界デザイン会議」を前に、
1973年そして1989年に日本で開催された「ICSIDデザイン会議」と、
それを核に展開された「Design Year運動」が、日本のデザインの発展
に果たした役割を検証する。

主 催 一般社団法人 国際デザイン研究フォーラム
WDO世界デザイン会議東京2023 実行委員会
共 催 デザイン振興政策アーカイブ・プロジェクト
日本デザイン学会プロモーションデザイン研究部会
東京ミッドタウン・デザインハブ

開催日時 2023年7月16日 日曜日 午後2:00-5:00 (交流会あり)
開催場所 東京ミッドタウン・デザインハブ内
「インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター」
東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウンタワー 5F
参加無料、Youtube Live 配信あり
お申し込み <https://icsid1973-1989.peatix.com/>

ICSIDシンボルマーク 左より：
世界インダストリアルデザイン会議 ICSID '73 KYOTO デザイン：亀倉雄策
世界デザイン会議 ICSID '89 NAGOYA デザイン：岡本滋夫
WDO世界デザイン会議東京2023 デザイン：廣村正彰



青木史郎



田中一雄



黒田宏治



藤本清春



諸星和夫



山村真一



西野輝一



宮崎修二

1973/1989 ICSID会議と Design Yearが残したもの



WDO世界デザイン会議東京2023 関連シンポジウム

プログラム

1. 開会・挨拶

青木史郎（一般社団法人国際デザイン研究フォーラム代表理事）
田中一雄（WDO世界デザイン会議東京2023実行委員長）

2. 1973年と1989年、ICSIDデザイン会議とデザインイヤー運動の概要

「デザイン振興政策アーカイブ」に収録された関連資料やインタビューを解題しつつ、1973年と1989年の概要と運動の構造を紹介します。

黒田宏治（デザイン振興政策アーカイブ・プロジェクト/
静岡文化芸術大学 名誉教授）

3. ラウンド・テーブル「1989名古屋デザイン会議への里程」

ICSIDデザイン会議誘致を担ったデザイナー、会議を企画し推進したデザイナー、そしてデザインを活用し都市の活性化を図ろうとした行政担当にお集まりいただき、当時の熱気を熱く語っていただきます。

藤本清春：道具学会会長/元 株式会社GKデザイン機構 副社長
宋久庵憲司氏とともに'89ICSID会議誘致・企画等を主導。
世界デザイン博覧会のプロデュースの一翼も担う。

諸星和夫：ICSID世界デザイン会議1989名古屋の実行委員長
トヨタ自動車株式会社デザイン本部 のデザイナーとして、
国内外で約40年間にわたりカーデザインに携わる。

山村真一：株式会社コボ 会長
名古屋を拠点に活動する総合デザインコンサルタント。デザイン
会議開催にむけて、開催地名古屋のコーディネーター役を務めた。

西野輝一：株式会社国際デザインセンター 代表取締役社長/前名古屋市長
名古屋市役所において、世界デザイン博覧会、ユネスコデザイン
都市などの事業を担当した。

4. 対談「国際化を希求した時代とデザイン」

1973年と1989年、世界的にも、また日本にとっても転換点となった年です。
当時、通商産業省でデザイン行政を担われた行政官と、日本産業デザイン振興
会の実務担当者により、デザイン会議とデザインイヤーを俯瞰します。

宮崎修二：元通商産業省検査デザイン行政室長（1993デザイン奨励審議会
答申策定時）一般社団法人高度技術社会推進機構/TEPIA顧問
青木史郎：元 財団法人日本産業デザイン振興会89デザインイヤー推進事務局
一般社団法人国際デザイン研究フォーラム 代表理事

5. 意見交換「今日へと引き継がれる課題」

ご参加いただいた方々とともに、デザイン会議とデザインイヤーの意義と、
そこから今日へと引き継がれていくべき課題を考えていきます。

6. 閉会

開催にあたって

「WDO世界デザイン会議」が、2023年10月に東京で開催されます。WDOの前身であるICSIDが、日本で最初に開催した1973年「京都デザイン会議」から数えて50年目、また1989年の「名古屋デザイン会議」から数えても、ほぼ30年ぶりの開催となります。そこで、本年のWDO世界デザイン会議開催に先立ち、過去に開催された2回のICSIDデザイン会議と、それを核に展開されたデザイン啓蒙運動Design Yearを振り返り、それらが日本のデザインの発展に果たしてきた役割を検証しておきたいと考えました。

日本は、インダストリアルデザインのもたらす効果効用をいち早く理解した国の一つです。政府もこれを推奨、日本企業も積極的に導入し、活用を図ることで、国際市場において高い評価を得る商品を次々に生み出してきました。日本にすっかり定着したインダストリアルデザインは、日本の産業の発展と生活の質的向上に大きく寄与してきました。その里程の中で、2回の「ICSIDデザイン会議とDesign Year運動」は、いかなる役割を果たしてきたのでしょうか。

1973年は、インダストリアルデザインへの理解を促しました。また1989年では、様々なデザイン領域の融合や地域への広がりなどが図られています。デザインの社会化という側面からみれば、「ICSIDデザイン会議とDesign Year運動」は、想定以上の成果を挙げ得たと思います。しかしその反面、これによりデザイナーの職能意識が向上したとも、企業におけるデザイン活動がより一層進展したとも聞かれません。また、日本デザインの国際的なアピールの機会となりましたが、それはICSIDの周辺に留まっていたようにも見受けられます。

過去2回の「ICSIDデザイン会議とDesign Year運動」は、決して片手間的に開催されたお祭りではありません。1973年も1989年も、日本のデザイン界がその想いを込めて、精一杯の準備を重ね、全力を挙げて取り組んだ、画期的なデザイン運動だったのです。それは、デザインの社会化をもたらす起爆剤とはなり得ました。しかし、その想いを十分に広げられたとは言い難い側面も多々ありました。その経緯を掘り下げれば、当時は実現できなかった要因、そして今日に連なる課題が、宝の山のように発見できるのではないかと考えられます。

そこで「ICSIDデザイン会議とDesign Year運動」について、当時の熱気を覗うことができる「場」を作りたいと考えました。1973年のそれは、もはや歴史の1ページとなってしまいましたが、1989年に開催された「名古屋デザイン会議」については、当時活動を担われた方々の証言を直接お聞きすることができます。またこの会議を核として展開されたデザインイヤーについて考えることで、より巨視的な視点から、これらのデザイン活動を俯瞰することもできそうです。

このシンポジウム「1973/1989 ICSID会議とDesign Yearが残したもの」は、ICSIDデザイン会議を誘致したデザイナーと、それを運動へと展開しようとした賛同者の方々が、この会議を契機として、日本とデザインに何をもたらそうとされたかをお聞きすることから始めます。そしてそこから、今日的なデザインと社会の課題を引き出していきたいと思います。

「京都デザイン会議」から50年、「名古屋デザイン会議」から30年余。むしろ時間を経た今日であるからこそ、時代を俯瞰的に捉え、適切な評価をおこなうことができるのではないのでしょうか。

WDO 世界デザイン会議東京 2023 関連シンポジウム「1973/1989 ICSID 会議と Design Year が残したもの」主な関係資料（デザイン振興政策アーカイブ収録）

→デザイン振興政策アーカイブ <https://design-archives.jp/>

1. 「文献検索」収録資料（全文 PDF 収録資料）

（1）ICSID '73 KYOTO と'73 デザインイヤーの関連


- A1. 「デザイン奨励審議会中間答申 -70年代のデザイン振興政策のあり方-」デザイン奨励審議会、1972年
- A2. 「世界インダストリアルデザイン会議 ICSID'73KYOTO の開催について」ICSID 日本準備委員会、1972年
- A3. 「'73 Design Year NEWS 2~12」デザインイヤー運営会、1973~1974年（1号欠）
- A4. 「ICSID'73KYOTO 世界インダストリアルデザイン会議」世界インダストリアルデザイン会議組織委員会、1973年
- A5. 「'73 デザインイヤー報告書」デザインイヤー運営会、1974年
- A6. 「世界インダストリアルデザイン会議報告書」世界インダストリアルデザイン会議実行委員会、1974年

（2）ICSID '89 NAGOYA と'89 デザインイヤーの関連

- B1. 「世界デザイン会議 ICSID'89NAGOYA 基本構想」世界デザイン会議開催準備委員会基本構想専門委員会、1987年
- B2. 「1990年代のデザイン政策」通商産業省貿易局編、1988年
- B3. 「'89 デザインイヤー基本構想」デザインイヤーフォーラム事務局、1988年
- B4. 「'89 DESIGN YEAR NEWS 1~12」（財）日本産業デザイン振興会、1988~1990年
- B5. 「'89 デザインイヤー参加事業一覧」'89 デザインイヤーフォーラム事務局、1990年
- B6. 「世界デザイン会議 ICSID'89NAGOYA」世界デザイン会議運営会、1989年
- B7. 「'89 デザインイヤー報告書」'89 デザインイヤーフォーラム事務局、1990年
- B8. 「'世界デザイン会議報告書」'世界デザイン会議運営会、1990年

2. 「研究フォーラム」収録、インタビュー記録等

- C1. 3度の世界デザイン会議を振り返る—ICSID'73 京都を中心に
（木村一男氏インタビュー調査記録／2019.08.29）
- C2. 公開インタビュー記録「90年代のデザイン政策と振興を聞く」GDE2019 トーク「日本のデザイン政策の歴史」第二部（黒田宏治、青木史郎、藤本清春、宮崎修二／2019.11.02）
- C3. 1989年のデザインイヤーを振り返る（日高一樹氏インタビュー調査記録／2020.03.23）
- C4. '89 デザインイヤー運動に併走した 5年を振り返る
（青木史郎氏仮想インタビュー調査記録／2020.06.27 ほか）
- C5. デザイン都市・名古屋のプロモーションの流れ
（江坂恵里子氏インタビュー調査記録／2022.05.17）



世界インダストリアルデザイン会議
ICSID'73 KYOTO
の開催について

1972年5月

ICSID日本準備委員会

世界インダストリアルデザイン会議
ICSID'73 KYOTO
の開催について

1972年5月

ICSID日本準備委員会

目 次

I	会議の開催について	1
	会議の開催について	2
	会議の主旨と目的	3
	会議の性格と意義	7
	会議の目的と効果	11
II	会議の構成	14
	会議の構成	15
	会議の主題	18
	会議の日程	20
	会議の規模	21
III	会議の準備	22
	その準備	23
	その組織	25
	その予算	27
IV	会議の広報	28
	会議報	29
	会議資料	29
	議事録	29
	公式記録書	30
	その他	30
V	会議の関連事業	31
	展示会	32
	セミナー	33
	記念出版	33
	その他	33

会議の開催について

私たちは、1973年10月、東京ではじめて「世界インダストリアルデザイン会議」(CSID'73 KYOTO)を開催します。

この会議はICSID(International Council of Societies of Industrial Design=国際インダストリアルデザイン団体協議会)の総会および会議を日本において開催するもので、日本から加盟している三つの団体(日本工業デザイン協会、日本工業デザイナー協会、日本工業デザイン教育振興会)の協力を得て、関係者から構成される運営および実行組織によって行われます。

この会議は、現代の日本と世界に既せられている人間の精神領域と物質環境、あるいは生活と環境の正しさをめざり、新しい生活環境の創造を目的として、世界中の人々が集い、問い直す重要な機会です。

I 会議の開催について

- 会議の開催について
- 会議の主旨と目的
- 会議の性格と意義
- 会議の目的と効果

この会議はしたがって、デザインを中心として生活のとらえかたをさぐる、すべての人々が、そのとも参加すべき重要な機会であります。

*1 社団法人 日本インダストリアルデザイナー協会 JIDA

通産省 製品科学研究所 JPRI

財団法人 日本産業デザイン振興会 JIDPO

会議の開催について

私たちは、1973年10月、東洋ではじめて「世界インダストリアルデザイン会議＝ICSID'73 KYOTO」を開催します。

この会議はICSID(International Council of Societies of Industrial Design＝国際インダストリアルデザイン団体協議会)の総会および会議を日本において開催するもので、日本から加盟している三つの団体^{*1}を母体に、ひろく日本中のデザイン諸団体と、関係者から構成される運営および実行組織によって行なわれます。

この会議は、現代の日本と世界に課せられている人間の精神領域と物質領域、あるいは生活と産業の正しいかゝりありあいという大きな問題を、日本に場を設けて世界中の人々が集い、問い直す貴重な機会です。

機械文明の高度な段階にたちいたった日本にとって、また世界にとって、今日はまさに大きく変身を遂げようとしている時点なのです。この時にのぞんで開かれるこの会議は、ひとつの時代の締めくゝりとなり、新しい時代に向けた出発の起点として、節を設けることゝなります。

日本はいま、73年をデザイナーとして、国民運動のレベルで大きい運動を展開しようとしています。生活をメインテーマとするこの運動に、「世界インダストリアルデザイン会議」は強力な滲透力をもった、先導的な重要な活動として働きかけていかなければなりません。

この会議はしたがって、デザインを中心として生活のとらえなおしを志さず、すべての人々が、ぜひとも参画すべき重要な機会であります。

*1 社団法人 日本インダストリアルデザイナー協会 JIDA
通産省 製品科学研究所 IPRI
財団法人 日本産業デザイン振興会 JIDPO

会議の主旨と目的

- ICSIDの世界性

ICSID(International Council of Societies of Industrial Design = 国際工業デザイン団体協議会)は1957年に結成され、現在35カ国^{*2}、57団体が加盟している国際的なデザイン運動の推進機関です。1959年より、隔年ごとに世界の各都市で、総会と会議を開催し、世界のデザイナーがそこに結集して、共通の課題の発見とその討議を重ねてきました。これまで、スウェーデン、イタリア、フランス、オーストリア、カナダ、イギリス、スペインの各国で行なわれています。

このように世界各国で会議が開催されるのは、各国の現実の姿を世界中の人々がじかに見つめることによって、共通の課題を発見し、その解決のための討議が具体性をもって行なわれると同時に、それがさらに国民的なレベルで、デザインのめざすものについての理解と関心が高められることを願っているからです。

このような活動にみられるICSIDの精神は、国連のめざす理念と軌を一にし、その支持を強く受けています。

- 日本で開催される意義

工業デザインの名において、世界会議がアジアを開催地に選んだことは、はじめてのことです。このように、機械文明の人類につきつけている課題が、はじめてグローバルな共通言語を必要とするにいたったことを立証しているとみることができます。

工業立国を遂げて次の時代の方向を摸索している日本にとって、この会議はICSIDの活動のめざすものからも、また産業社会における今日的な課題としても重要な意味をもっています。

*2

アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、ブルガリア、カナダ、中華民国、チェコ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、東ドイツ、英国、香港、ハンガリー、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、オランダ、ノルウェー、ポーランド、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、スイス、アメリカ、ソ連、ユーゴスラヴィア、インド、メキシコ、ニュージーランド、パキスタン

わが国でもこれまで多くの人々の努力によって、根強いデザイン活動、近代的生産方法による生活への文化の導入の活動がとどけられてきました。

今日、「物」をつくりだす産業は、生活環境を形成する大きな影響力を獲得しています。同時に、産業はその力を生活によりよく還元する方法の確立をデザインに協力を求めています。

豊かな生産力と高い技術を手にした日本が直面している未来の方向を探る、という問題をグローバルな課題として、デザインの世界会議が開かれることは、まことに時宜を得ているものであります。

- デザインの新しい使命

今やデザインは、生活を構成する個々の「物」と対しているだけでは、生活者の願いを具現する使命を果たすことが難しくなってきました。広く社会の諸問題を総合的に把握することから、混乱した社会に秩序をみだし、そこから個々の「物」のあらたな姿を発見していくという新しいデザインのあり方が求められています。

個々の製品を美しくする術を獲得しても、そこに生活者としてのトータルな像が完成していなければ、納めるところがありません。現在、個々の「物」の美しさも、その働きも、すぐに住宅問題、交通問題、都市環境、産業公害の問題にゆきあたって、その効力を失ってしまいがちです。これらの問題は、「物」そのもの、次元より上の次元からの取組みによって解決していかなければなりません。社会の活動のルールを規定する憲法によって人の世界が治められるように、「物」の世界は新しい美の憲法、もの相互の関係の規律、「物」づくりに秩序を求める「道」をうちたてることによって治められます。そうしてはじめて「物」それ自身を美しく存在させることが可能となるのです。

こゝにおいて、デザインは生活者を主体においた知恵と行動の統合がなってはじめて可能となる、という問題のとらえかたがクローズアップされてきました。

この、「物」の存在に向けられた新しい美の憲法をもってすれば、こどもにはこどもの「物」の世界が、おとなの愛情によってつくられるでしょう。老人の生活環境は、老人にふさわしい静かな豊かさをもたらすでしょう。病める人には身体と心の双方を助ける目的をもった道具が企画されるでしょう。またこの憲法は、技術の成果を、まっ先に身体障害者の失われた機能をみたすために用いることを命じるでしょう。

このように、現代文明を生活者の視座から見なおすとき、あらためてみいだされる諸局面を、世界インダストリアルデザイン会議に結集して討議することは、全生活者の願いであります。

- ニューライフをつくる

経済のすばらしい発展を遂げ、工業立国をなし遂げた日本において、それによって人々に満足を与えることができず、かえって量の世界に対する不満の声が高まっているのは、日本が文化国家としての長い歴史をもった民族の心を培ってきたからです。量の世界をマスターすることは、日本にとっては過程にすぎず、本来の面目は、量を基盤とした「質」の追求にあります。この志向が、デザイナーという生活者の運動にまで高められていくわけです。

工業化社会の上に、生活者の本来のすがたを築きあげようとするわが国の姿勢が、世界のデザイナーと膝をまじえて語りあうことによって世界の知恵に支えられ、そして世界に伝えられる貴重な機会です。これはまた、日本が世界の未来を築く運動をリードしていくことにもなりましょう。

日本の現代の課題は、インダストリーというすぐれた「物づくりの方法」を介して、新しい生活、新しい生きがいをつくりあげることにあります。

日本人は、生活そのものを求道にまで高めるほどに、生活を大切にす民族でした。茶道、華道、書道など、もろもろの「道」は、生活の中にあるさまざまな要素を抽出し、生活の味わいを高めようとする求道としての「生活道」でした。しかもこれらの「道」が、全国津々浦々まで、驚くべき幅の広さで続けられてきたのです。このことは、生活を高めたいという願いが、すべての人々のものであることを事実をもって証しています。

しばし、わたくしたちは、近代化という「物づくりの方法」にうちこんで、生活者としての願いをみずからふりかえることを怠ってきた観があります。その結果、さまざまの害がみずから降りそぐというまことに知恵のない姿を招いています。しかしながら、この状態を脱し、本来のあり方へ正そうとする意志が全国に満ちていることが今や誰の心にも感じられています。

諸芸道が即「生活道」でありえたのは、そこに物質領域と精神領域の統一が、つねに求められていたからです。「物づくりの道」の名人も、生活道の摸索にたえるすぐれた品物

や道具をうみだしました。「あきんどの道」の名人である豪商も、心の世界に目をひらくことによって海外に雄飛し、一国の文化の基礎となる芸道を支えました。世を治める大名が領土よりも名物の茶器を求めた事実も、歴史の語るどころです。世を美しくしようとする願いは、工業立国を遂げた日本において、すべての行動の支えとして、今日、あたらしく活性化されていこうとしています。

- 新しい会議の創造

量の世界を築いた現代人にとって、それらの多様化した情報のインテグレーションを、人間性を主軸に実現していくことが、秩序を導く方法の主題となります。「世界インダストリアルデザイン会議」は、情報交流に新しい会議の創造を試みます。

会議におけるこの試みは、個人の生活者としての主体の参画こそ、いかに現実的な力を示すことができるかを立証する機会となります。

- あらたなデザイン運動の出発

「世界インダストリアルデザイン会議」は、産業と生活を生活者の視座から再編成し、生活者の思想の確立をめざすひとつの運動として行なわれます。

生活の再編成は、生活を支える産業の目的を明確にし、産業の再編成を導きます。生活と産業の再編成は、政治と行政の世界にも新しいフォーカスを求めます。こうして日本のすべての分野が一体となった、一国の再編成の運動が、デザインのプロモーションによって、国民運動としての大きさと拡がりをもって展開されるのです。

デザイン運動は、「物」の世界から、現代の社会のあり方を問い直す運動です。物と人との対話、精神と物質のインテグレーションをこゝろざす運動の主体は、すべての生活者にあります。なぜならこの運動は、本来、毎日の生活の主題であるものが、生活の名においてクローズアップされたものにほかならないからです。

このような大きい意義をもつ主題が正面からクローズアップされる機会が、関係各方面から賛意を受けて、多元な原動力を獲得しつつあることは、まことに喜ばしいことです。

わたくしたちはこの会議を成功に導くべく、準備委員会を設け、着実な活動つづけて参りました。愈々実行段階に移行するにあたり、わたくしたちは懸命の努力をつくす決心であります。各界諸賢の理解ある御協力、御支援を賜りたいと存じます。

会議の性格と意義

・ 物は文化を伝える使節

日本は、世界中に向けてかずかずの品物を送りだしています。「物」は、地球上のどこへでも運ばれてゆき、それを受けとる人々に、それをつくった人間の姿を映し、心の香りを伝えていく性格をもっています。

それゆえ「ものづくり」の世界会議が日本でひらかれるということは、それまでに物を通じて交ってきた民族が、どんな背景から、どんな考えから、どんな摸索から、それらをうみだしていたかを、つぶさに見てもらい機会として意義があります。

物質に人工の手が加わると、物質は器物や道具の姿をとり、その意味は言葉の通じない人たちにも即座に伝わります。物はいかなる言葉よりも、もっとも雄弁で正直な、すぐれた外交官です。しかも、おびたゞしい数々の外交官であり、毎日の生活を助けることによって、地域を異にし、人種を異にした人々との対話を支えます。

「ものづくり」日本において、「物」に質を与える仕事としてのデザインがこれからの世界を考えていくうえで大事なポイントであることは、いうまでもありません。

・ 思想、物、生活の三位一体

インダストリーが基調である世界にあって、デザインの世界会議は、すべての人々に共通な課題の討議の場として機能せざるをえない状況が、すでに地球を訪れているのです。

問題は世界的なひろがりをもった量としてとらえられ、課題は総合的な相貌をもち、主題は本質的なところへと深まらなければなりません。量と相と質をインテグレートする、これがこの会議の性質です。

この会議は、コミュニケーションの媒体として、「思想を媒体とする」会議、「物を媒体とする」交歓、「生活を媒体とする」対話を三位一体としたメディアの総合においてなされなければなりません。こゝに、世界会議の新しい方法が樹立されようとする試みが、この会議を大きく性格づけていきます。

・ 各論をこえて

現代、産業と人間、生産社会と人間生活とのかゝわりは根深い問題であり、すべての解

決の試みが必ず他との関係によって壁につき当たっています。ここに、諸々の問題の根深いからみあいをつらかりによって解くために、今こそ本当の知恵が求められているのです。現代の視点とは、この意味で「各論」を超えたところで、すべてをすくいあげる大きな網をつくることにあるのです。

・ 各大会のテーマ

このような課題に対して、これまで隔年ごとに開かれた ICSID 世界会議のテーマは次のように、それぞれ現代的な視点を持ち、解決への願いがこめられたものでした。

- 第1回 '59 ストックホルム会議 「インダストリアルデザインの国際的定義」
- 第2回 '61 ヴェニス会議 「社会におけるインダストリアルデザインの役割」
- 第3回 '63 パリ会議 「インダストリアルデザインにおける統一要素について」
- 第4回 '65 ウィーン会議 「デザインと公共」
- 第5回 '67 モントリオール会議 「人間から人間そのものへ」
- 第6回 '69 ロンドン会議 「デザインと社会、その未来」
- 第7回 '71 イビサ会議 「流動する社会とデザイン」

・ 今回のテーマ

デザインの課題と、その解決みいだし努力がこのように続けられ、今回、その会場に日本が選ばれたのです。「世界インダストリアルデザイン会議 = ICSID '73 KYOTO」では、「物」に投影されている人間の姿をみきわめることによって、人間自身の姿をみいだし、という「物」と「人」との根源に立ち戻る必要があります。

人間のうみだした機械文明の活用のしかたに、知恵を用いていく方法を求めることをさしおいては、私たちは未来に光明をみいだしすることはできません。

・ 現代の課題

近代は「ものづくり」の新しい方法によって築かれました。現代の諸問題に「ものづくり」の側からの発言を、社会に向けていく姿勢がぜひとも必要です。世界インダストリアルデザイン会議は、その発言の姿勢をもたなくてはなりません。

各国で行なわれた ICSID 世界会議のテーマは、それぞれがインダストリアル・エイジにおける諸問題をデザインの立場から把握し、デザインを社会に結びつけようとしています。

- 現代の特徴

現代人の多くは農業化社会に根をもった文化の集積を心のふるさととし、生活、習慣、風習はもとより、価値観さえも農業化社会のそれに立脚しています。そして私たちは、工業化社会に住み、しかも未来にむけて生活文化のヴィジョンを新しく築こうと試みているのです。これは非常に難しい問題です。

ここに、計画の学としてのデザイン、価値の学としてのデザインが、この難問を卒先して解きあかす使命を負っている意味があるのです。過去と未来の間に立って、過去の文化を否定するのではなく、むしろ過去の文化を未来につなげていく役割を負っています。ゆえにデザインの会議が、この全人間的な問題を問わなければならないのは当然でありましょう。

- インダストリアルデザインの意味

インダストリーをデザインする、インダストリアル・エイジをデザインする、ここに世界インダストリアルデザイン会議の性格があります。

これはインダストリアル・エイジの問題が、単にインダストリアルデザインの分野ばかりでなく、デザインのすべての分野にかゝわることであり、またそれらをトータライズしていくことが求められていることを示しています。

- 地域性と国際性

この会議は、いかなる権威による制約も、いかなる組織の規制も受けることのない自由な討議の場としての性格をもっています。すべての参加者は、その国籍、人種、皮膚の色、あるいは宗教のいかんを問わず、同等の立場で会議に参加し、同等の発言権をもち、自由な意志で討議に加わることを保証されています。

この平等の立場の上では、すべての問題が共通の問題となります。これによって、地域的な問題が国際的な観点から克服されることが可能となります。地球をめぐる東西の問題、南北の問題、そこにもっとも普遍性をもち、またもっとも地域性の強い「生活のデザイン」の問題を抽出するとき、はじめて地球を丸いものとしてとらえることができます。地球を丸くするには、地球をデザインという共通の言葉で包むことによってはじめて可能です。

リージョナルな特殊性を、グローバルな普遍性によってつなげていく、これが生活のデ

デザインを軸とした世界会議の意義なのです。それぞれの国が、それぞれの生産や経済の機構をもち、独自の生活をもち、異った価値体系をもっています。各々に課せられるデザインの課題もまた、その背景にふさわしい特色をもっています。これらの地域から専門家が、各々がもっている方法論や考えを提示しあうことによって、それぞれが打ちたい壁を克服していく手段をみつけていくところに、この会議の意義があります。

私たちは、私たちの生活の姿を世界にむかつて開いてみせることによって、各国の人々の意見を謙虚に聞き、また示唆を与え、こゝに世界との互助の関係がうまれます。

。 新しい人間宣言

生活それ自体を対象とした世界会議、これが、科学技術はなやかな現代に対して、ひとつの新しい性格をもたせることになるといわなければなりません。いわば時代のテーマが、科学技術という方法論から「もの」をかゝげ、それらが構成する「生活」をかゝげる目的論に移る変革の契機です。別の言葉でいえば、これは科学技術に対する新しい人間宣言となる、といえます。

技術に対する人間宣言、これは、技術がもたらした高密度な環境を、人間的により豊かにしていこうという宣言です。技術をうみだした人間が、これを活用する段階に入ろうとする宣言になるのです。

このようにして、この会議は、世界の全生活者が新しい人間生活を求めていくために、ぜひ成功させねばならない会議であり、それがわが国において開催されることは、デザイナー運動の強力な推進力ともなりうるのです。

そして、この世界インダストリアルデザイン会議においてみつけられた新しい火が、世界のデザイン運動として、新しい豊かな人間生活をつくる運動として、世界のすみずみまで燃えひろがり、世界を動かす大きいエネルギーとなることを願っているのです。

会議の目的と効果

・ 会議の目的

世界インダストリアルデザイン会議＝ICSID'73 KYOTO が、変転点を迎えようとしている日本にとって、大きい意義をもっていることは、すでに述べたところです。時代は、古き時代の価値体系は崩れ、新しい体系はいまだ生まれぬ時にあり、その中の人間環境形成への努力の中に、デザイナーの積極的な役割を位置づけていくのが、この会議の目的です。

・ 京都で行なわれる意味

この会議が、現代諸問題の[・][・]るつぼである象徴的都市としての東京でなく、京都においておこなわれることに特筆すべき意味があります。

京都の街は長い年月によって、デザインされてきた街です。歴史に登場したすべての人々が、公家から民衆にいたるまでが営々として築きあげてきたひとつのシティ・デザインが実体として存在しています。この地こそ、これからのニューライフを語るにふさわしい地と考えているのです。

デザインが生活をクローズアップする会議を、生活者の築いた街において開くことは、生活する人々すべての力によってデザインされていく人間環境とはいかなるものであるかを、現実のレベルで理解していくことにあるのです。

世界の「生活者」を代表する人々による世界的な会議が、この街の大きな活動として結集され、ひとつの刺激となり、また会議中には、コンGRESS・シティとしての姿をあらわすことを、私たちは期待しています。

・ 運動形態としての会議

世界インダストリアルデザイン会議＝ICSID'73 KYOTO は、情報化社会に向けたひとつの試みとして、会議が都市をくるみ込んだかたちで行なわれるという、新しい会議形式の創造をめざしています。

世界会議という貴重な機会が、形式的な代表たちの挨拶に終るのではなく、それぞれに貴重な挨拶の言葉が、貴重な意味を発揮するには、生活者の参加がなければなりません。

生活者に支えられてはじめて、デザイン推進の根本である、すべての人々の理解、そして社会の理解もまた求めうるのです。デザインの分野の会議ゆえに、特にこのことは強く望まれるのです。

そしてこの会議が市民の中に波紋を投じ、その反響が参加者をゆすぶるという相乗作用が、参加者と市民との共通の問題意識、運動への意識となって生まれることでしょう。

- すべてのデザイナーの参画を

この会議は、インダストリアルデザイナーとその関係者を中軸としながら広いジャンルのデザイナーの参画によって構成されることを願っています。むしろ、インダストリアルデザイナーが中軸となることによって、デザインのジャンルの境界がとりはらわれていくことを願っているのです。

- デザインの枠を超えて

従来のデザイン運動は、デザイナー側からの啓蒙活動と、デザイナー自身の職能確立に重きがおかれていました。今私たちは、この自己の職能意識の枠から脱脚して、デザイン自体が社会的諸活動の中心に、運動形態をとって入りこむことを意図しています。それによって、すべての活動に運動形態を与え、運動相互のぶつかりあいの中から、自らの内にもまた外からも、デザインの意識が造像されていく、そういう新しい方法の展開をはかるものなのです。

- 新しい造形運動の姿

これまで、多くのデザイン運動は、明確なかたちでの造形運動を伴っていました。アート・アンド・クラフト運動、アール・ヌーボー、そしてバウハウス運動などにその姿をみることができます。今、ここに企図されている運動は、いわば造形のレベルをこえたところに視点をおき、協力の発見、因と果の相関関係の発見、「もの」とその秩序、それを人間の精神を軸として構築しようという、いわば人間世界の反映としての「物」の世界の造像運動というべきものです。形の域をこえて姿を見出す運動というべきです。

- 世界と日本の新しい関係

このような次元の問題にあっては、先進国と開発途上国とのギャップはありません。私

たち日本が、世界中と対していくために、物質の力以上のものを加味するとき、つねに問題は原点に戻って考えなければなりません。35カ国からのメンバーの参画によって、これらの新しい世界像が築き直されることを願います。

世界中をおろし各民族が、長い歴史の試練を経て築きあげてきた物質と精神とのかゝわりの実体化としてのデザイン、そこに含まれる貴重な意義を積極的に掘り起して、そこから「あたらしい物づくりの方法」によって、より豊かに、より密度の高いものをつくりあげていく方向をみいだすのが、この会議の目的なのです。

- 未来社会に活路をひらく

こゝに現代に築きあげた技術の新しい方向をみいだすでしょう。そして生活者の思想にのっとってものづくりする日本は、文化をうみだし、送り出す国としての、本来の面目を発揮し、文化をもった民族のありかたとして、新しい国家としての日本を実現する道をたどる契機がうまれることゝ私たちは信じます。

このような意味において、この会議の開催が、文化形成を通して、日本が世界との新しい関係を取りむすぶばかりでなく、日本の政治、経済、そして市民生活の進展に寄与することを確信する次第です。

会 議 の 構 成

「世界インダストリアルデザイン会議=ICSID'79 KYOTO」は、「コンGRESS・ホール」、
「コンGRESS・プラザ」、
「コンGRESS・シアター」の三つの施設からなっています。会
議の成果をより大きいものとするために、そして、それをより力強いものとするために、こ
のような新しい会場の構想を計画いたしました。

世界の偉大な設計家によって、これからの未来の方向を示唆し、問題を提示していく「コン
GRESS・ホール」で提示された問題を、参加者自らにそれを個体とし、さらにそれ
をふつてありこ
ることで、

Ⅱ 会 議 の 構 成

- ・ 会 議 の 構 成
- ・ 会 議 の 主 題
- ・ 会 議 の 日 程
- ・ 会 議 の 規 模

会場のこ
うな環境を
つくるため、
用います。

「コンGRESS・ホール」
設立を目的
が行なわれ
認の内容で

(I) 記 念 講 演

(II) 主 題 討 議

1) 産 業 設 計

2) 商 業 設 計

3) 全 員 参 加 の 討 議

その方法については次の通りです。

(III) 記 念 講 義

世界の思想の指導的立場にある文化人をゲストに招いて、世界的視野での思想的視野
となる講演を依頼しています。

会 議 の 構 成

「世界インダストリアルデザイン会議= ICSID '73 KYOTO」は「コンgres・ホール」、
「コンgres・プラザ」、
「コンgres・シティ」の三つの構想からなりたっています。会議の成果をより大きいものとするために、そして、それをより力強いものとするために、このような新しい会議の構想を計画いたしました。

世界の偉大な頭脳によって、これからの未来の方向を示唆し、問題を提起していく「コンgres・ホール」、ホールで提示された問題を、参加者自らがそれを個体化し、さらにそれをぶつけあうことによってテーマを掘り下げていく「コンgres・プラザ」、そして会議の輪を、会議を開催する都市全体へとひろげる「コンgres・シティ」、この三つの構想の中で会議は展開されます。

会議のコミュニケーションを円滑に行なうために、会場の装備や環境をととのえ、発言や討議を視聴覚に訴えるため、オーディオ・ヴィジュアル・システムなど有効なメディアを活用いたします。

1. 「コンgres・ホール」

国立京都国際会館を会場として、世界の頭脳たちの鋭い洞察によるテーマの展開、追求が行なわれます。精神をメディアとする人と人との接点の場であります。そして大略、下記の内容で構成されます。

- (1) 記 念 講 演
- (2) 主 題 討 議
 - 1) 基 調 講 演
 - 2) 副 題 討 議
 - 3) 全員参加の討議

その方法については次の通りです。

(1) 記 念 講 演

世界の思想の指導的立場にある文化人をゲストに招いて、世界的視野での思想的指針となる講演を意図しています。

(2) 主 題 討 議

1) 基 調 講 演

主題についての設問と討議課題をうちだします。

2) 副 題 討 議

パネルディスカッション形式とします。

パネリストは会議前に各国より協会、または個人(グループを含む)の2種類の論文を公募し、その論文より、パネリストを選定します。

3) 全員参加の討議

全員参加の討議は下記の2種類の要領で行なわれます。

- (イ) 各副題についてパネルディスカッションの結果を各議長がプログラムを作成し、参加者全員の意見の結果をひきだす。
- (ロ) 参加者のなかで一問一答を試みる。

いわば禅問答に似た形式で端的な自己表現から発言者相互の形而上的表象を導きだします。

2. 「コンgress・プラザ」

世界中から集まる参加者一人一人の自分自身のワークによって、その場を構成します。これは、プラザにおける討論が、現実の場をふまえて展開されることを願うからにほかなりません。そしてホールにおいて提起された問題を、参加者の各々が、それを自らの問題として追求し、それをさらに掘り下げていくのが、この「コンgress・プラザ」です。くもの巣に例えるならばホールでの討議は、中心から周囲へ放射状にのびる糸であり、プラザにおける展開は、その糸を参加者によって、ひとつひとつ結びつけてネットをつくりあげる円周状の糸にあたるともいえましょう。この二つの糸によって、はじめて会議のネットは完全となるのです。そして次のような内容で構成されます。

(1) テーマ、ディスプレイ

会議主題を視覚的に参加者になげかけます。

(2) パーソナル・ディスプレイ

参加者が自分自身のワークを通じて問題を提起します。それによって世界中の現実の問題が一堂に展観されます。

(3) ディスカッション・サークル

参加者相互が「ホール」での討論をさらに掘り下げるもので、この「プラザ」の中心となるものです。

(4) スピーキング・コーナー

参加者が自ら発言し、提案し、主張する場です。

この「プラザ」の目的をはたすため、会場にはふさわしい装置を用意することが求められます。

3. 「コンGRESS・シティ」

ホール、プラザが会議場の中にその場を求めるのに対し、この「シティ」の構想は、それをシティ全体の中に広げようとする考えです。シティの中で、世界中から集ったインダストリアルデザイナーとその推進者たちが交流し、接し合うことによって、この会議に一層のひろがりや深さを与えようとするものです。

そのためにシティの中に適切な場を設けることを計画します。

会 議 の 主 題

主題（仮） 「人の心と物質の世界 = Soul and Material things」

現代のわたくしたちの世界は、大きい壁に直面しています。人間を豊かにしていかななくてはならない物質文明が、そのあまりにも急激な発展のためにさまざまな問題を誘発し、影響を与え、そのとめどもない発展の行く末には、おそれすら感じられております。人々は豊かな物質文明の恩恵に浴しながらも、その心の中には満されない、なにかを感じています。この物質と精神と二つの領域のかゝわり合いは、人間のこれからの行き方を左右する大きい問題であります。

この二つの領域にかゝわり合い、それを結びつけていく役割と責任をもっているインダストリアルデザインは、今こそ、その本来の使命が果されなくてはなりません。主題（仮）として「人の心と物質の世界 = Soul and Material things」をとりあげた意義はこゝにあるのです。

この主題は、下記のような副題のもとにさらに深く討議されていきます。

1. 「人と環境」

1) 都市について

こゝでは公共問題、交通問題、都市生活問題、都市美観問題等が討議対象となるでしょう。

2) 自然について

こゝでは公害問題、自然生態問題、自然美観問題等が討議対象となるでしょう。

3) 世界について

こゝでは世界の人々のこゝろを結ぶインダストリアルデザインの役割、製品にかゝわる国交問題、民族性、宗教性とデザインのつながり等、世界平和に寄与するインダストリアルデザインの価値ある存在を認識することでしょう。

2. 「人と社会」

1) 経済について

こゝでは企業とユーザー、生産と流通、現代感覚と市場等の今日的な、世界共通に起

りつゝある課題について討議されるでしょう。

2) 情報について

こゝでは人とコミュニケーション、人と人との関係、製品のもつ情報性等、人とインダストリアルデザインにかゝわる情報問題の全てについて討議されるでしょう。

3) 科学技術について

こゝでは進歩する科学技術と人のところとの調和、文明の進展、変化、制御、の諸問題について討議されるでしょう。

3. 「人と生活」

1) 労働について

こゝでは労働に対してのインダストリアルデザインのはたらき、その関与の方法と任務について具体的な手段が討議されるでしょう。

2) 余暇について

こゝでは人間生活で重要な余暇のあり方、意味について、インダストリアルデザインの深いかゝわりについて、具体的な効用について討議されるでしょう。

3) 住いについて

こゝでは人々の住生活について、インダストリアルデザインの強い影響についての具体的な討議が展開されるでしょう。

そのほかに、特別課題として、下記のような項目が現代のインダストリアルデザインを考えるうえに、必要、欠くべからざる問題として、とりあげなければなりません。

この主題などについては、実行委員会の正式発足後、その内容委員会（仮称）によって、討議の方法を含めて、検討が重ねられ正式に決定されます。

会 議 の 日 程

- 1973年10月 8日 (月) 於経団連会館 国際会議場
第8回 ICSID総会
- 10月 9日 (火) 同 上
- 10月10日 (水) 移 動 (東京 - 京都)
「コンgres・プラザ —— I」
- 10月11日 (木) 於国立京都国際会館
午 前 開 会 式
基 調 講 演
記 念 講 演
午 後 「人 と 環 境」
「コンgres・プラザ —— II」
特別分科会 災害対策について、ほか
- 10月12日 (金) 於国立京都国際会館
午 前 「人 と 社 会」
「コンgres・プラザ —— III」
特別分科会 身体障害対策について、ほか
午 後 「人 と 生 活」
特別分科会 開発途上国振興対策について、ほか
- 10月13日 (土) 於国立京都国際会館
午 前 会 議 総 括 報 告
午 後 閉 会 式

会 議 の 規 模

会議の参加者は次のように予定しております。

総会		会議	
参加国	39カ国	外国からの参加者	400名
参加者	300名	国内からの参加者	1,200名
		(合計)	1,600名

世界インダストリアルデザイン会議が、1965年、日本で開催されることとなるまでは、これまで1955年以來5年間にわたって、下記のような経過をへてまいりました。

- 1965年 ワシントン総会において、日本で会議開催の意志を表明した。
- 1966年 ロメフ総会では、日本開催についての具体的提案を行なう。
- 1968年 ワシントン総会において、日本開催が内定

した。

1969年 11月 JIDAはICSID準備委員会を設け、以後4次にわたって委員会

Ⅲ 会 議 の 準 備

1970年 9月 グレノブ・エール事務総長と東京において、通産省、IPRI、JIDPO、

・ その 準 備

1971年 1月 IPRI、JIDPO、JIDA三者の代表者によって、ICSID日本準備

・ その 組 織

・ その 予 算

1971年 1月 通産省、IPRI、JIDPO、JIDAにより、世界インダ

1971年 10月 パリ・コロンナ総会で、正式開催提案と新総会議場を発表、日本開

ICSID理事会メンバーにJIDA 栄久理事理事が加わる。

1971年 12月 第6回JIDA '71 デザイン会議において、パロコロンナ総会の報告

IPRI、JIDPO、JIDA三者の代表者によって、ICSID日本準

1972年 1月 デザイン・イフにおけるICSID理事会において、会期などの基本原

今後の準備活動の展開は、大略以下のように進められつつあり、日本の地理的条件などから、式場活動は特に重要視されましよう。

そ の 準 備

世界インダストリアルデザイン会議が、1973年、日本で開催されることになるまでには、これまで1965年以来6年間にわたって、下記のような経過をへてまいりました。

- 1965年 ウィーン総会において、日本で会議開催の意志を表明した。
- 1967年 オタワ総会では、日本開催についての具体的提案を行なう。
- 1969年 9月 ロンドン総会で、1973年 日本開催を提案し、日本開催が内定した。
- 12月 JIDAはICSID 準備委員会を設け、以後4次にわたって委員会組織の拡大を行なう。
- 1970年 8月 クレソニエール事務総長と東京において、通産省、IPRI, JIDPO, JIDA の間で日本開催について協議した。
- 11月 IPRI, JIDPO, JIDA三者によって、ICSID 日本協議会を設立、以後定例連絡会を開催して、世界インダストリアルデザイン会議についての討議を開始する。
- 1971年 7月 通産省、IPRI, JIDPO, JIDA により、世界インダストリアルデザイン会議開催についての、第一次基本原案を検討した。
- 10月 バロセロナ総会で、正式開催提案と歓迎メッセージを発表、日本開催が正式に決定された。
- ICSID理事会メンバーにJIDA 栄久庵理事長が加わる。
- 12月 第6回JIDA'71 デザイン会議において、バロセロナ総会の報告を行ない、日本開催を公表した。
- IPRI, JIDPO, JIDA三者の代表によって、ICSID 日本準備委員会および、同計画委員会が発足した。
- 1972年 1月 エディンバラにおけるICSID理事会において、会期などの基本原案を提案し決定した。

今後の準備活動の展開は、大略以下のように進められますが、日本の地理的条件などから、広報活動は特に重要視されましよう。

- 1972年 5月 政府補助金関係の諸検討。会議内容の具体的検討に入る。内容検討のための顧問団を設ける。広報計画の検討。
運営会、実行委員会の設立準備に入る。
政府補助金関係の手続の実行。
- 6月 実行委員会、事務局の設立。海外アピール、会議報の発行準備。
- 7月 海外招聴者の立案、打診開始。運営会の設立。
- 8月 会議報第1号発行。一般へのアピール開始。
- 9月 会議開催最終計画完成。
- 10月 第1次サーキュラー作成発送。海外アピールを開始する。
参加登録開始。
関連して行なう事業の企画、内容の検討。海外招聴者の確認、その内容の依頼。
募金活動の開始。
ICSID理事会を日本で開催。
- 12月 宿泊施設などの第1次調整。配布印刷物の準備開始。
- 1973年 1月 デザインイヤー開幕。
- 2月 歓迎プログラムの交渉開始。配布資料の準備。
- 5月 参加登録中間チェック。設営プランの立案。
- 6月 募金活動の活潑化。
- 7月 会議の直接準備期に入り、事務機構の強化。
- 8月 参加登録締切。設営プランの完成、制作開始。
- 9月 配布印刷物、資料完成。会議運営機構の編成。
- 10月 会議開催。
- 12月 会期中の報告書類のチェック。
デザインイヤー閉幕。
- 1974年 1月 会議処理委員会発足。
- 2月 会議報告書の作成。
- 3月 国内外反響のとりまとめ。
- 8～10月 公式記録書の完成。

そ の 組 織

1. 「世界インダストリアルデザイン会議日本運営会」(仮称)

会議の準備、開催、運営とその報告、あるいはその成果の普及徹底のために、財団法人日本産業デザイン振興会内に「世界インダストリアルデザイン会議日本運営会」(仮称)を設置し、会議運営の総括調整を行ないます。

「日本運営会」は会長1名、副会長 名、理事および評議員若干名、監事2名をもって構成します。

「日本運営会」には、内容検討その他諸検討の一層の充実をはかるため、国内外の有識者をもつて構成する「顧問団」を設けます。

2. 「世界インダストリアルデザイン会議実行委員会」(仮称)

会議の組織化、テーマの選択、討議の方法、日程の検討、その他会議運営のための諸計画を展開するために「世界インダストリアルデザイン会議実行委員会」(仮称)を設け、通産省製品科学研究所、(財)日本産業デザイン振興会、(社)日本インダストリアルデザイナー協会および関係各分野よりの若干名をもって構成します。

なお本委員会は、準備の進捗にともない、漸次その形態と拡がりを実行してゆく形をとります。

「実行委員会」は実行委員長1名、副委員長 名、専門委員長 名、専門委員若干名をもって構成します。

実行委員会の円滑な運営をはかるため、実行委員長および専門委員長による「委員長会議」を設けます。

会議運営、国内組織の強化、調整、その他の諸検討の一層の充実をはかるため、国内各デザイン団体関係者による「相談役」を設けます。

計画の具体的展開のため、以下のような専門委員会を設け、実行計画の立案準備を行ないます。

内容委員会	総務委員会
財務委員会	広報委員会
組織委員会	設営委員会
渉外委員会	事業委員会

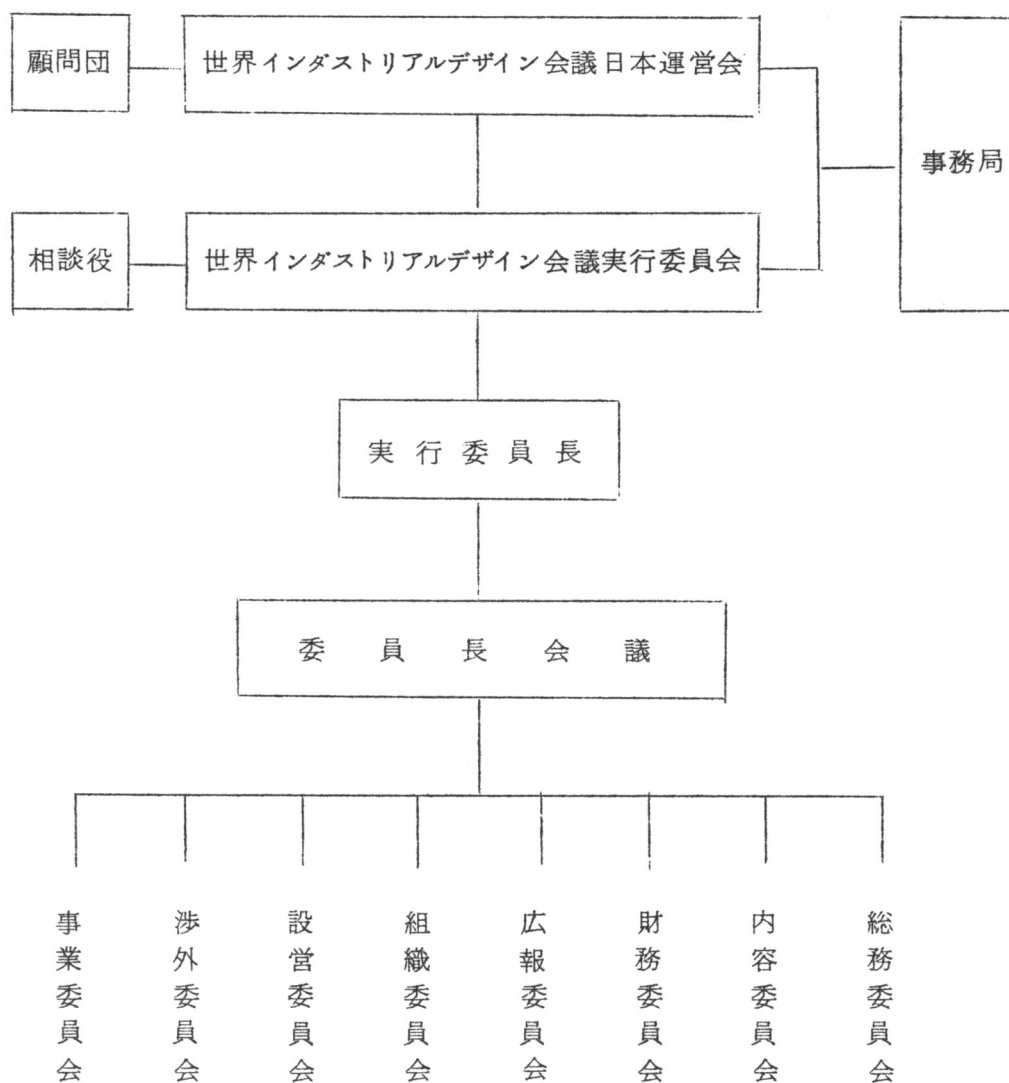
会議期間中は、専門委員会のほか臨時職員などをもって「会議運営機構」を編成し、会議運営処理にあたります。

会議終了後は、これら専門委員会は「会議処理委員会」に切換えます。

「日本運営会」「実行委員会」を補佐し、その相互の円滑な運営とその業務の進行展開のため「事務局」を設けます。

「事務局」は、事務局長1名、次長 名、事務局員若干名をもって構成します。なお、「事務局」は、準備の進捗にともないその体制を強化します。

世界インダストリアルデザイン会議運営組織（案）



そ の 予 算

会議の資金は、参加者の参加登録費が重要な財源であるのはいうまでもありませんが、しかし、それをもってすべてをまかなうことは不可能であり、かなりの部分を民間からの寄付金にまつものであり、また相当額の政府補助金を支えとするものであります。

したがって、その経費はつとめて冗費をはぶき、効率よく運用していかななくてはならないのは勿論のことであり、予算の総枠は極力きりつめていかななくてはならないのでありますが、この会議が期する成果をあげ、それをひろく国内外に反映させるために、ある限度というものがあるのはいなめません。

これまでの同程度の規模の会議の予算決算状況を調べ、またこの会議の特殊性 ——
例えば、オーディオ・ビジュアル・システムの活用、配布物のビジュアルライズ化など ——
を考慮に入れて予算計画を行ないます。

その細部は詳しい検討が必要であり、会議の形態、参加者の動向などによって多少の変動はあると思われます。

会議開催の意義をより広く反映させ、会議をより成功へと導くため、会議の広報誌「世界インダストリアルデザイン会議・会議報」を発行します。これは本会議の運営会、実行委員会の公式刊行物として、会議開催の意義やその準備状況を、加えて関係方面はじめ一般に報告通知するとともに、関心を喚起することも目的とします。また、この会議報は、英、仏語で、国内外での広報活動に活用されます。

IV 会 議 の 広 報

- 会 議 報
- 会 議 資 料
- 議 事 録
- 公 式 記 録 書
- そ の 他

議 事 録

会期中の討論は原則として、速記と録音によって記録し、当日の討論開始までに整理された印刷物として、参加者に手渡さなければなりません。

また、その要点は取りまとめられ、プレス・シートとして、新聞などの報道関係者に配布されます。

会議開催の意義をより広く反映させ、会議をより成功へと導くために、会議の広報誌「世界インダストリアルデザイン会議・会議報」を発行します。これは本会議の運営会、実行委員会の公式刊行物として、会議開催の意義やその準備状況を、刻々広く関係方面はじめ一般に報告周知するとともに、関心を喚起することを目的とします。また、この会議報は、英、仏訳され、ひろく海外での広報活動に活用されます。

会 議 資 料

会議が短い期間に充実した内容となるためには、討議される論点が参加者相互の間に充分理解され明確になっていることが重要であります。

この会議では事前の連絡を活用し、資料を事前に参加者に送付し、研究をねがっておけるようにしたいと考えております。

会議の公用語は、日、英、仏の3カ国語でありますので、これらの資料はもちろん3カ国語で用意されなければなりません。

議 事 録

会期中の討議は原則として、速記と録音によって記録し、翌日の討議開始までに整理された印刷物として、参加者に手渡さなければなりません。

また、その要点は取りまとめられ、プレス・シートとして、新聞などの報道関係者に配布されます。

公 式 記 録 書

会議終了後、できるだけ早く会議の公式報告としての記録書を編集し、参加者、寄付者、その他関係者に頒布いたします。

この記録書には、会議の討議内容をはじめ、準備の経過報告、参加者、関係者の名簿、会議の決議にもとづくアピールなど、会議に関するすべてが集大成されます。

そ の 他

ポスターなど、ヴィジュアル・メディアを通じての広報活動とともに、国内外のマス・コミュニケーション諸機関や、デザイン関係ジャーナリズムと密接な提携をとって、会議関係はもちろん、ひろくデザイン分野の広報活動を強力に展開します。

世界インダストリアルデザイン会議を開催することは、単に参加者のみでその成果を反映するにとどまらず、デザイナーの基幹事業として、デザインの関係分野は当然のこと、ひろく企業や一般市民にまで、改めてデザインに対する正しい関心と、理解とを深める役割をはたすことが求められます。そのためにも、会議の広報活動とともに、それに関する関連事業が重要な意義を有していると考えます。関係各分野およびデザイナー連合計画本部（仮称）と協力し、その目的達成のために有効な事業を展開したいと考えます。

V 会議の関連事業

- ・ 展 示 会
- ・ セ ミ ナ ー
- ・ 記 念 出 版
- ・ そ の 他

1. 「日本の伝統」展

日本の伝統的技法を広いアングルから探り、その歴史的意義を明らかにし、日本人のデザインする力を強めて考えようとするものであります。海外からの会議参加者に向けて、日本インダストリアルデザインの背景をもとめる一助となりましょし、国内参加者、一般市民に対しても、自分たちのもつ伝統について考える機会を提供するでしょう。

2. 「世界の学生デザイン教育」展

学生や、若いゼネレーションの動きは、インダストリアルデザインの世界においても、大きい意味をもつものです。それは単に現代の潮流を明らかにするだけでなく、未来の動向に対する動きを暗示するものであるからです。そういう意味で、世界中のデザイン学生（若くは）の年代の現実の動きを一望で示して提示することは、大きい意味をもつといえます。これは単に学生や教育界に留めてだけでなく、デザイナーおよびそのほか、市民にいたるまで注目すべきものとなりましょし。

世界インダストリアルデザイン会議を開催することは、単に参加者のみにその成果を反映するにとどまらず、デザイナーの基幹事業として、デザインの関係分野はもちろんのこと、ひろく企業や一般市民にまで、改めてデザインに対する正しい関心と、理解とを深める役割をはたすことが求められます。そのためには、会議の広報活動とともに、それに関する関連事業が重要な意義を有していると申せます。関係各分野およびデザイナー運動計画本部（仮称）と協力し、その目的達成のために有効な事業を展開したいと考えます。

展 示 会

本会議の関連事業としての展示会として三つの計画があります。

1. 「会議テーマ」展示

ここでは、現在のインダストリアルデザインおよび、それをとりまく諸問題を取りあげ、本質的問題提起を行なおうとするもので、この会議の方向を視覚的に参加者にアピールしようとするものです。

2. 「日本のかたち」展

日本の伝統的かたちを広いアングルから探り、その現代的意義を明らかにしたのち、日本人のデザインする力を改めて考えようとするものであります。海外からの会議参加者に対して、日本インダストリアルデザインの背景をもとめる一助となりましょうし、国内参加者、一般市民に対しても、自分たちのもつ伝統について考える機会を提供するでしょう。

3. 「世界の学生デザイン教育」展

学生や、若い世代の動きは、インダストリアルデザインの世界においても、大きい意味をもつものです。それは単に現代の問題を明らかにするだけでなく、未来の動向に対する動きを暗示するものであるからです。そういった意味で、世界中のデザイン学生の70年代の現実の動きを一堂に会して展示することは、大きい意味をもつといえましょう。これは単に学生や教育界に対してだけでなく、デザイナーおよびそのほか、市民にいたるまで注目すべきものとなりましょう。

セ　　ミ　　ナ　　ー

世界中のインダストリアルデザイナーおよびインダストリアルデザイン関係者が、このような規模で日本に集まることはもちろんはじめてのことです。世界のインダストリアルデザインのトップの頭脳が来日する機会に、日本の各界におけるインダストリアルデザインに対するより高い関心と理解を深めるために、社会の各層を対象としたセミナーを計画したいと考えます。これは単にデザイン界のみでなく、日本の各界の今後の方向に必ずや大きい影響を与えるであろうことを信じております。

記　　念　　出　　版

この会議の開催を記念し、これまでの日本インダストリアルデザイン発展の足跡と現在の状況をまとめた出版物を刊行したいと考えます。本会議が日本のインダストリアルデザイン史上で重要な意味を有するよう、日本のインダストリアルデザインの発展のあとをふりかれり、これからの方向をさぐる、この出版の意義ははなはだ大きいと考えます。

そ　　の　　他

その他、インダストリアルデザインの正しい啓蒙、普及活動のために、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、などマス・コミュニケーション諸機関と協力して、ひろく一般市民を対象にした諸活動を展開します。

(以　上)

ICSID 日本準備委員会

委員長 柴久庵 憲 司

委員 赤川 直 亮

” 石田 幸 一

同上計画委員会

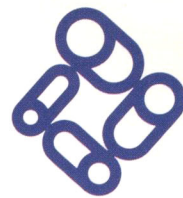
委員長 木村 一 男

委員 吉岡 道 隆

” 西本 芳 雄

” 那賀 清 彦

” 来栖 義 郎



世界デザイン会議

ICSID'89 NAGOYA

会議: 1989年10月18日(水) - 21日(土)

開催地: 名古屋市「白鳥センチュリープラザ」他

Theme: Emerging Landscape: Order and Aesthetics in the Information Age

テーマ: かたちの新風景 - 情報化時代のデザイン

主催 = 世界デザイン会議運営会

E M E R G I N G L A N D S C A P E

世界デザイン会議公式ポスター(海外向)



世界デザイン会議

会議：1989年10月18日—21日

テーマ：かたちの新風景—情報化時代のデザイン
Emerging Landscape:

Order and Aesthetics in the Information Age



目次	
会議概要	4
実行委員長メッセージ	4
はじめに	5
テーマ「かたちの新風景—情報化時代のデザイン」	6
プログラム構成	6
プラネットの概要	7
世界デザイン会議全体プログラム	8
レセプション	9
ICSID総会	9
分科会の解説	10
関連行事	12
パーソナル・プレゼンテーション	12
パソコン通信会議	12
ホームステイ	12
同伴者プログラム	13
エクスカーション	13
ポストコンGRESツアー	14
会場案内	16
会議開催中のサービス	16
登録	18
宿泊ホテル・エクスカーション・ツアーの申込み	19
89デザインイヤー	20
世界デザイン博覧会	20
デザインイベント	21
世界デザイン会議の運営組織	22

- 会議名称** 世界デザイン会議—ICSID '89NAGOYA
開催時期 会議：1989年（平成元年）10月18日～21日
 *
 IC SID 総会：10月22日～23日
開催地 名古屋市「白鳥センチュリープラザ」他
テーマ かたちの新風景—情報化時代のデザイン
 Emerging Landscape : Order and
 Aesthetics in the Information Age
形式 基調講演、分科会、エクスカージョン、
 世界のグレートデザイン展、市民フォーラム他
関連事業 世界デザイン博覧会
参加規模 3,000名（うち海外からの参加者1,000名）

*ICSID=国際インダストリアルデザイン団体協議会
 International Council of Societies of
 Industrial Design

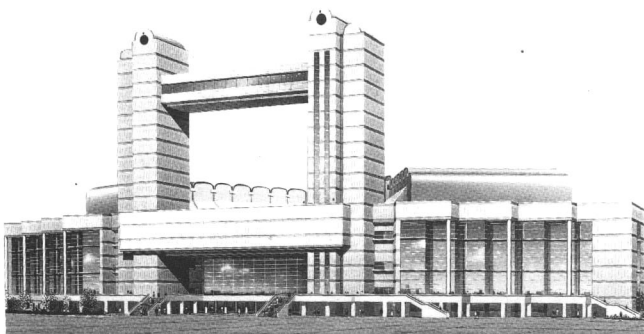
皆様に世界デザイン会議への参加のご案内を申し上げます。
 この会議を計画するにあたり、私は次の三つのことを考えてきました。

- ①世代のつながりを大切にしていきたい。
 ベテランと若手をつなぐ。
- ②21世紀へのメッセージとなるヒト、モノに触れる機会をつくりたい。
- ③同じ時代を生きる人間としての共感が残るものとしたい。

この考え方はこのサーキュラーに具体化されています。
 この会議への参加が皆様にとって価値のあるものになることを確信しております。

- この会議は、白鳥センチュリープラザのメインホールでの基調講演に始まり、2日目から七つの分野にわかれて分科会を行い、3日目はエクスカージョンで会場の外のプログラムにも参加していただき、最後の日に再び3,000人のメインホールにもどってくる構成になっています。
- 分科会は宇宙にうかぶ惑星をイメージした7プラネットで構成しており、三つの会場にわかれて行われます。皆様には好きなプラネットを選んでプラネット間の移動も楽しんでいただけたらと思います。
- 会議参加者は、グレートデザイン展、市民フォーラムといった一般市民向けのプログラムにも参加していただけます。
- 会議にあわせて、世界デザイン博覧会も開催されていますので余裕のある参加日程を組まれることをお奨めします。
- 白鳥会場には学生のサロンとして、デザイン・キャンパスと名づけたスペースを用意します。皆様は学生の方々から参加を依頼されるかもしれません。その時はできるだけ彼等のために時間をさいてあげてください。
- 海外参加者のためにはホームステイを行います。日本の家庭に泊まっていただく計画で、日本の生活にふれ、会議とは異なった人と人との交流の場ができればという願いでつくりました。
- 今回の会議にはさまざまなプログラムが用意されています。どうか事前に充分研究してご参加ください。
 名古屋で皆様に心からお待ちしています。

世界デザイン会議運営会実行委員長 諸星和夫



新たなる時代の創造と挑戦。

1989年10月、名古屋に世界のデザインの英知が結集します。

世界で最も大きなデザインを考える国際会議が、本年10月、名古屋で開かれます。「世界デザイン会議(ICSID'89NAGOYA)」は、'73年の京都会議について、日本で2度目、実に16年ぶりのことです。

デザインは、人々の営みの全てに深く係わってきました。そしていま、デザインは新たなる時代を切り開く重要なキーワードになりつつあります。'90年代という新しい時代の幕開けを目前にした今年には、「'89デザインイヤー」として、生活・産業・文化のあらゆる分野で、デザインを通してそのあり方を見直し、その向上をめざして、多面的に考えていこうとする国民運動が展開されます。世界デザイン会議が開催される名古屋では、世界でも類例を見ない「世界デザイン博覧会」が7月15日から135日間にわたり開催されます。

世界デザイン会議は、このような広がりのもとに、20世紀の世界と日本のデザインを総括し、来るべき'90年代、そして21世紀へ向けて、新たなるデザインのヴィジョンとパラダイムを、デザインのジャンルを越えて探求していこうとするものです。

'89年10月、世界中からデザインに係わる全ての英知が名古屋に結集します。そして、世界デザイン会議から、'90年のデザインムーブメントの胎動がはじまります。そのために私たちは、より多くの人々の参加を呼びかけます。

日本の、そして世界のデザインの新たな波を創り出すこの会議に、あなたのご参加を心から期待しております。

多彩なプログラムで多面的に深めていきます。

21世紀まであと11年、次の時代を担う若者が育っています。一方、私たちの環境である地球は、岩石や水、空気、そして生物のすべてが、あたかも一つの生命体のようにお互いに関連しあって存在していることが、明らかになってきたといっただよいでしょう。

このような時代にありながら、私たちはそれぞれの国や地域がかかえている問題をよく理解しているとはいえません。情報技術が飛躍的な進歩をとげつつある今日こそ、世界の各地から人びとが集まり、それぞれの地域の問題を知り、その解決のためにデザインはどう機能すべきか、そしてそのために何をなすべきかを地球全体の課題としてお互いに考え、分かちあう必要があります。

世界デザイン会議は、生活、産業、文化、政治、経済、科学、そして自然環境や資源など全ての分野での係わりを一層深めつつあるデザインのあり方を、学際的、業際的に、そしてローカルにして、

グローバルな視点から探求し、より充実した社会の実現に向けて新たなムーブメントを創造しようとするものです。

世界デザイン会議は、4日間にわたって七つのプラネットのもと、30にのぼる分科会で120人以上のパネリストが参加して討議が進められていきます。会議期間中には、各国のデザイナーたちが、アイディアや作品を発表し意見を交換しあう、パーソナルプレゼンテーションスペースや、世界のデザインを学ぶ学生や若きデザイナーたちが交流を深めるデザインキャンパス、そして会議内容をより深めていくさまざまなエクスカージョン、ポストコングレスツアー、またデザインのエキジビションなど広がりのある多彩なプログラムが行われます。

20世紀はデザインの時代である。産業革命以来、近代社会を築きあげた工業化が本格的に花ひらき、より強く、より速く、より高くという、人類の夢と希望を具現する“モノ”の研究と開発がされてきた。デザインはそうした“モノ”の開発や生産と密接な係わりをもって、より美しく、より便利に、快適にという願望をもとに、華々しく展開を遂げ、きょうの隆盛を迎えています。

しかしながら21世紀を眼前にして工業が主導してしてきた社会の基盤が変化してきています。情報化社会への転換は、広範な影響を社会におよぼしはじめ、生活様式の変貌などさまざまなデザインにかかわる課題を提起しています。デザインが“モノ”に係わる膨大なエネルギーを文化へと結晶させる行為であるならば、こんにちほどデザインが必要とされている時代はないといえます。かつて口紅から機関車まで、いまキャッシュカードからインテリジェントビルにいたるまでの“モノ”の世界には、情報化時代としての社会のしくみや価値観を反映し、再構築することが求められています。そしてモノがつくる場や、使う行動様式が描きだす風景、さらにモノから想起される心象風景が、どのような未来をかたちづくるのが課題となっています。

世界デザイン会議は、こうした問題意識にたって、20世紀社会においてデザインの果たした社会的機能、および現代のデザインに係わる課題を総括するとともに、デザイナーのみならず他分野の人々、そしてデザインに関心をもつ市民の参加を得ながら、これからの情報化時代が求めているモノ文化のありかた、すなわち「かたちの新風景」を構築していこうとするものであります。

会議のプログラムは、メインテーマ「かたちの新風景—情報化時代のデザイン」のもとに、21世紀のデザインを求めて、デザインの世紀としての20世紀を見直し、現在を分析し、新しいデザインを展望します。

そのために、この会議はデザインの世界と、それをとりまく領域をひとつの宇宙と考え、会議の七つの領域をそれぞれ宇宙に浮かぶプラネット（惑星）をイメージしています。したがって会議全体は七つのプラネットが立体的にかたちづくるひとつの星座となります。

会議の構成は、プラネット I 「20th-Century Design／デザインの20世紀」において今世紀をデザインの世紀と捉えて、思想や技術の歴史との対話のなかで総括します。つぎに今日のデザインが創り上げた風景、直面している風景をプラネット II 「Design Axis／デザイン・アクシス」において多面的に論じ合う。そして21世紀の新風景を求めて情報化時代のデザインを展望するプラネット III 「Designing Design／デザインのデザイン(21世紀)」が展開していきます。

これをとりまく惑星群として、幅広いデザインの境界面で活発な動きをみせている他領域をプラネット IV 「Stimulating Design／デザインを挑発」が、またデザインの豊かさと広がりを楽しむプラネット V 「Enjoying Design／デザインを遊ぶ」が用意されます。

さらに、情報化の進展とデザインの拡大のすがたを、開催国日本をケース・スタディとして討論の場に提供するプラネット VI 「Japan Design／日本のデザイン・意」およびデザインの現場を体験するプラネット VII 「Japan Workshop／日本のデザイン・匠」が加わります。

この構成をもつ会議全体を、参加者は自由に動きまわり、発言し、体験することによって、現代デザインの課題とその可能性を示す大きな星座を、自ら描きあげていただきたいと考えています。

プラネットの概要

I. 20th-Century Design ————— デザインの20世紀
工業化社会の成熟へのデザインの道程とその思想、および社会生活へおよぼした影響など、デザインが作りあげた20世紀を社会、技術、人の三つの側面で総括し、情報化社会へ転換しつつある現代を照射する課題を抽出します。

II. Design Axis ————— デザイン・アクシス
情報化時代を迎え、大きく変容しようとする産業や社会構造、生活様式を、“モノ” が作りあげている場や行動の風景、また心象風景としてとらえ、それを構成しているさまざまなデザインの軸から現代が直面するデザイン課題と、その克服すべき方向を検討します。

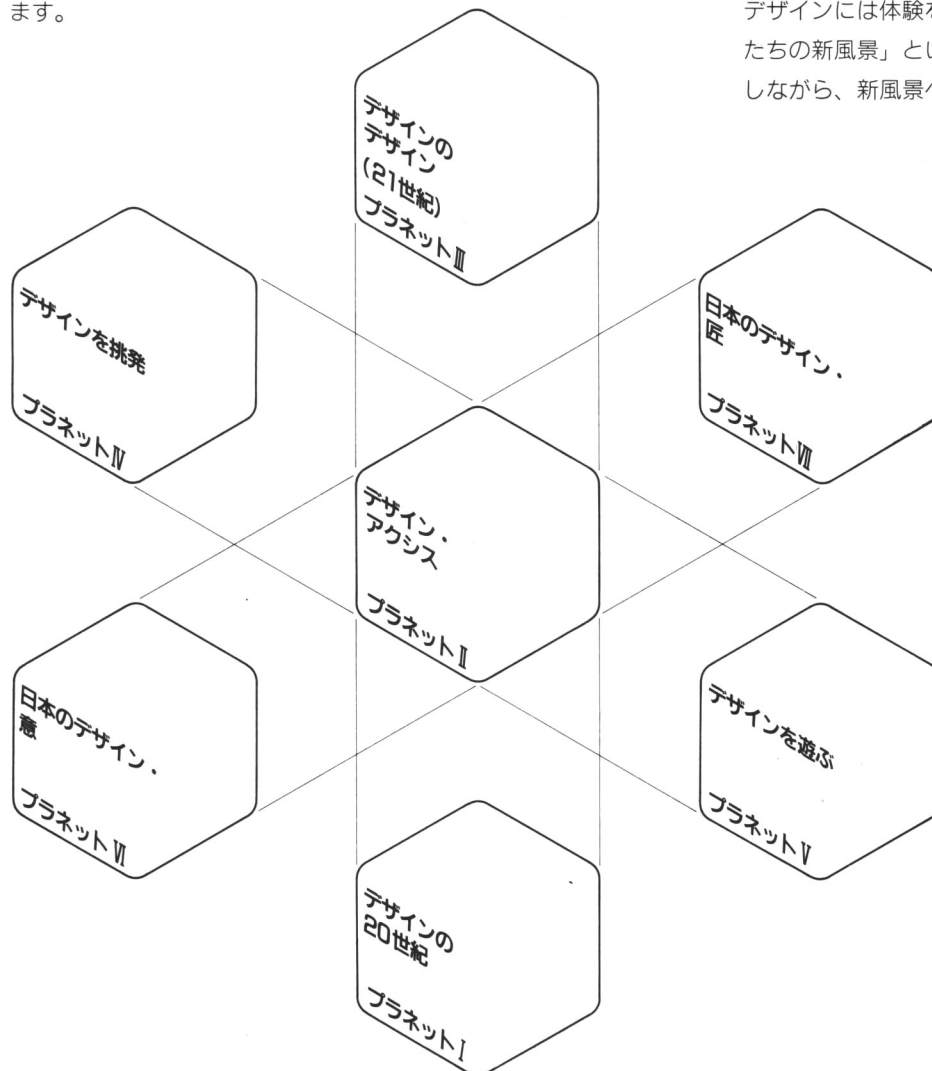
III. Designing Design ——— デザインのデザイン (21世紀)
本格化する情報化社会におけるデザインのあり方について、技術、教育、産業、職能など各分野にわたって討議し、未来を切り開く視座を獲得するとともに、かたちに託す次の時代の新風景を考えます。

IV. Stimulating Design ————— デザインを挑発
現在のデザインおよびデザイナーの発想・技術を高め、またデザインに係わる他の分野を発揚させるため、異なる分野の現代のことも重大なテーマを討議し、交流します。

V. Enjoying Design ————— デザインを遊ぶ
創造の楽しみというデザインの原点を確認するとともに、デザインで遊ぶ、あるいはデザインを遊ぶ展開を試みます。

VI. Japan Design ————— 日本のデザイン・意
日本は歴史的に、和魂漢才、和魂洋才という言葉に表されるように、外界からの影響を積極的に導入しつつ、それを独自のものに変容させ、今日につながる文化を築きあげてきています。国際化にあって、こうした日本文化を体現するデザインについて、その思想と技術、および社会生活との係わりを討議します。

VII. Japan Workshop ————— 日本のデザイン・匠
デザインには体験を通して始めて理解できる部分があります。「かたちの新風景」という視覚的なテーマを、実際に見、触れ、体験しながら、新風景への道を考えていきます。



世界デザイン会議全体プログラム

前日・10/17(火)	第1日・10/18(水)	第2日・10/19(木)		第3日・10/20(金)		
11:00~18:00	13:00~17:00	プラネット/会場		9:00~12:00	14:00~17:00	
登録	開会式	分科会.1	分科会.2	分科会.3	分科会.4	
白鳥センチュリー プラザ 1階アトリウム	プラネット I. デザインの20世紀 ●白鳥センチュリープラザ 4階大会議室 (306人)	I-1 普遍と固有 社会	I-2 テクノロジーの系譜 技術	I-3 膨張する「知」 人	エクスカージョン	
		プラネット II. デザイン・アクシス ●白鳥センチュリープラザ 4階会議室 (120人)	II-1A 変化・伝播 	II-2A コンピュータ 		II-3A 先端技術
			●白鳥センチュリープラザ 4階会議室 (120人)	II-1B 移動 		II-2B 不安・安心
		●白鳥センチュリープラザ 3階会議室 (240人)	II-1C 国際 	II-2C プロモーション 		II-3C 教育-1
	開会式 開会宣言 基調講演 記念講演 ●白鳥センチュリープラザ メインホール (3,000人)	プラネット III. デザインのデザイン(21世紀) ●白鳥センチュリープラザ メインホール (694人)	●	III-2 カーデザイン・ サミット	III-3 21世紀への デザイン-A	III-4 21世紀への デザイン-B
	●名古屋市科学館 B2階サイエンスホール (341人)	プラネット IV. デザインを挑発	IV-1 科学の美	IV-2 挑発する想像力	IV-3 新しい生命	エクスカージョン
		●電気文化会館 5階イベントホール (300人)	V-1 遊びのかたち	V-2 アニメ進化論	V-3 都市の快楽装置	
			●電気文化会館 B2階コンサートホール (395人)	VI-1 四季と日本人	VI-2 日本式の マーケティング	
		●電気文化会館 8階小会議室 (100人)	プラネット VII. 日本のデザイン・匠	VII-1 組む	VII-2 焼く	
	19:00~21:00 ウェルカムパーティ 白鳥センチュリー プラザ	19:00~21:00 公式レセプション ホテルナゴヤキャッスル	同伴者プログラム		同伴者プログラム	

第4日・10/21(土)	
9:00～12:00	14:00～17:30
全体会議	閉会式
III-5 インターシティ ●白鳥センチュリープラザ メインホール(3,000人)	
閉会式 プラネット総括 閉会宣言	
同伴者プログラム	
19:00～22:00 さよならパーティ 世界デザイン博覧会名古屋会場	

レセプション

世界デザイン会議では、世界から集まる参加者相互の親しい交流を深めていただくため、三つのレセプションを行います。ウェルカム／公式両パーティには、会議参加者は無料で参加できます。さよならパーティへの参加には別途参加費3,000円が必要です。

10月17日(火) 19:00～21:00 ウェルカムパーティ
 白鳥センチュリープラザ（世界デザイン博覧会白鳥会場内）
 カクテルパーティ／カジュアル・スタイル

10月18日(水) 19:00～21:00 公式レセプション
 ホテルナゴヤキャッスル
 ブュッフェ・パーティ／インフォーマル・スタイル

10月21日(土) 19:00～22:00 さよならパーティ
 名古屋城本丸ステージ他（世界デザイン博覧会名古屋会場内）
 ブュッフェ・パーティ／カジュアル・スタイル

ICSID総会

10月22日(日)～23日(月)に愛知県産業貿易館で第16回ICSID総会が開かれます。総会の運営はICSIDの事務局が担当します。

プラネット I. デザインの20世紀

20世紀という時代を社会・技術・人の三つの側面で総括し、現代のデザインの課題について考えます。

I-1 普遍と固有/社会

デザインの基調として常に考えなければならない社会と個人の関係、インターナショナルイズムと地域主義、変化と普遍などの課題をとり上げ、現在の状況を見つめます。

I-2 テクノロジーの系譜/技術

思想の変化、技術の進展とそれぞれの果たした役割。デザインと密接な係わりをもっている今世紀のテクノロジー世界を眺め、その果たした意味を考えます。

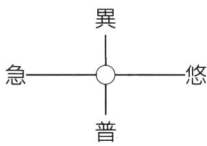
I-3 膨張する「知」/人

今世紀に切り開かれ、探究されてきた新しい認識論、意識の世界、宇宙など膨張してきた知識の世界が与えたデザインへの影響をとらえます。

プラネット II. デザイン・アクシス

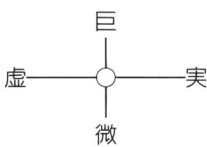
複雑多岐にわたっているデザインの領域をできるだけ広くとらえながら現代を切り取ることでできる座標軸を設定し、今日のデザインについて考えます。

II-1A 変化・伝播



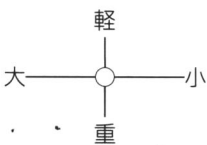
伝わることによる変質
情報は正しく伝わるのか、固有の文化として留まるものと世界的に普及していくものなど、デザインに係わる情報、伝播の構造を探ります。

II-2A コンピュータ



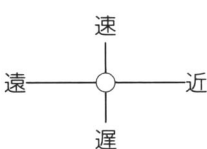
コンピュータと友人になれるか
ますます巨大化してゆく情報処理能力と緻密化するソフトウェアなど。コンピュータがデザインに何をもちたらずかを考えます。

II-3A 先端技術



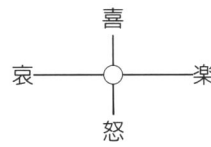
見えるものと見えないもの
先端技術が開くデザインの可能性と、これからの両者の係わり方を論じます。

II-1B 移動



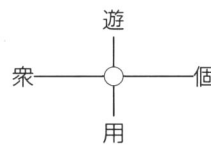
情報化社会におけるトランスポーテーションとは。
環境と生活にとっての移動の意味を考えます。

II-2B 不安・安心



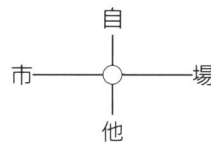
生活における不安・安心
デザインは人々に安心を与えることができるか。
高齢化、ハンディキャップ、ライフプロテクション、環境など、現代人がかかえる諸問題についてデザインという切り口から考えます。

II-3B 量



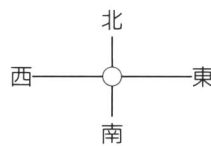
多量生産は多くの人々に物の豊かさをもたらすとともに品質も高めてきました。
一方、人々の生活は、ますます多様化、個性化してきています。マスと個のかかわりの意味について考えます。

II-1C 国際



経済とデザインの専門領域
国際化する産業社会におけるデザイン・プロフェッショナルの位置は、国により異なっています。その役割はこれからどのようにすれば良いかを考えます。

II-2C プロモーション



各国の事情に応じたデザイン振興のプログラムと実績を通して、これからのデザインプロモーションのあり方を探ります。

II-3C 教育-1



次世代への人作り=文化の伝承と新しい可能性の発見

II-4C 教育-2

教育-1 バウハウス以降、デザイン教育の内在的問題（かたち優先かコンセプト優先か）をとりあげ、デザイン教育の役割を考えます。

教育-2 現代社会におけるデザイン教育の意義と役割、教育現場を囲む社会経済等の変化を見ながらこれからのデザイン教育のあり方を考えます。

プラネットⅢ．デザインのデザイン（21世紀）

未来を切り開く新しいデザインの視座を獲得するとともに、次の時代の新風景を考えます。

Ⅲ-2 カーデザイン・サミット

今世紀のリーディング・インダストリーであり、デザインオリエンテッドな業種でもある自動車産業の今後の課題と21世紀への展望について日米欧カーメーカーのマネジメントが語ります。

Ⅲ-3、4 21世紀へのデザイン-A/B

複雑な現代社会の一角を担いながらいま活躍しているクリエイターが、来るべき21世紀像について語ります。

Ⅲ-5 インターシティ

都市を総合的にデザインの対象としてとらえ、デザインの果たす社会的側面やデザインに係わる課題を抽出し、地球的視野に立った新たなデザイン運動のあり方を考えます。
この会議の総括としての討論を展開します。

プラネットⅣ．デザインを挑発

デザイン以外の分野からデザインに対するさまざまな刺激をとりあげます。

Ⅳ-1 科学の美

現代科学の最前線にいる人たちからみた美意識を通して、デザインの創造性を喚起します。

Ⅳ-2 挑発する想像力

演劇、映像、音楽の世界から次々に広がり変化するイマジネーションの新しい方向を探り、情報化時代のデザインの姿を追求します。

Ⅳ-3 新しい生命

ロボット、バイオテクノロジーなど、新たな生命体の存在を通して人工世界に対して今日のデザインがなすうる可能性と社会的役割を論じます。

プラネットⅤ．デザインを遊ぶ

デザインの領域を広げる場として遊びをとりあげ、これからのデザインの可能性を考えます。

Ⅴ-1 遊びのかたち

遊びの中に秘められたデザインの可能性を求め、創造の原点を探ります。

Ⅴ-2 アニメ進化論

見る人のイマジネーションを刺激し、内的世界を作り出すアニメーションの魅力と不思議を探り、デザインの広がりを持示します。

Ⅴ-3 都市の快楽装置

ビデオレンタル、ファミコンゲーム、パチンコ、巨大メイズなど、個としての道具から都市的規模へと広がりを見せ、変貌してゆく遊びの道具としての快楽装置を、デザインの面からとらえ今後の動向を探ります。

プラネットⅥ．日本のデザイン・意

日本式考え方は、世界に貢献したのか。

人、生活、組織の三つの側面で日本のオリジナリティを考えます。

Ⅵ-1 四季と日本人

日本人の生活思考の基調となっている四季（季節感）の影響についてデザインの視点からとらえ、日本人の感性とオリジナリティを探ります。

Ⅵ-2 日本式のマーケティング

海外の動きを受け、新たな生活文化を構築してきた日本的なライフスタイルは今、新局面を迎えている。デザインからみたこれからの日本の生活文化とは何かを考えます。

Ⅵ-3 日本式のマネージメント

世界的に注目されている日本的経営の特質を探り、その中でデザインはどのような役割を担ってきたかを考えます。

プラネットⅦ．日本のデザイン・匠

日本のワザの伝統と現代へのつながり方に焦点をおいて、この地方の代表的な伝統産業を、現代技術との対比においてとらえます。

Ⅶ-1 組む

天然繊維から人工繊維へ、着物から宇宙服へ繊維がもたらす「衣」の本質を見極め、今後の可能性を探ります。

Ⅶ-2 焼く

伝統から先端技術へのもっとも顕著な進展を見せている、陶磁器とファインセラミックスを例にとりあげ、新素材利用によるデザインの可能性を探ります。

Ⅶ-3 織ぐ

漆、花火、刃物など伝統にささえられ確立された技術が、現代にどう活かしているのか、その使われ方とデザインの現場を語ります。

関連行事

会議開催中は、さまざまな関連行事を行います。会議参加者はどの催しにも自由に参加、参観することができます。

展示会

世界のグレートデザイン展

10月17日(火)～22日(日) 愛知県美術館

世界デザイン会議に参加するスピーカーのひとと作品及び21世紀へのメッセージを紹介、さらに20世紀を代表する世界のデザイナー、建築家の作品や、台頭する新しいデザイン動向を展示します。

パーソナル・プレゼンテーション

10月18日(水)～21日(土) 電気文化会館

会議参加者が自分のワークや提案を展示・発表する会場です。詳しくは別項をご覧ください。

国際デザイン・ザ・フューチャー・コンペティション入賞作品展

10月17日(火)～21日(土) 白鳥センチュリープラザ

「五感+αコミュニケーション」をテーマに行われるコンペティションの入賞作品を展示します。

そのほか、白鳥センチュリープラザでは、ICSIDの行うインターデザインセミナー(ノルウェー・富山)や教育セミナー“Ways of Eating”の成果が展示されます。またデザイン・ギャラリーでは日本の代表的なデザイン団体が企画した現代デザインの最前線の展示会が開催されます。

そして'89ソーラーカー・デザイン・グランプリで入賞した車の展示も計画されています。

セミナー

市民フォーラム

10月18日(水)～21日(土) 愛知文化講堂

一般市民の方々のために身近なデザインのテーマをとりあげたセミナーを開催します。

その他

デザイン・キャンパス

10月18日(水)～21日(土) 白鳥センチュリープラザ

デザイン学生のための特別スペースです。自由な交流を期待しています。あなたのデザインメッセージを35%のスライドでお持ちになれば、その場でカラーコピーにして展示できます。

そのほか、10月20日(金)白鳥センチュリープラザでコンサートの夕べ「ヴェルディ in ナゴヤ'89」が企画されています。

パーソナル・プレゼンテーション/パソコン通信会議

ホームステイ

パーソナル・プレゼンテーション

パーソナル・プレゼンテーションは、会議参加者が作品や提案を発表する場です。この会場はひろく一般市民にも公開されます。このプレゼンテーションに参加を希望する方は、添付の申込書に記入してお申込みください。請求書及び関係資料をお送りします。

なお、申込みが多数の場合は、お断りすることがあります。

10月18日(水)～21日(土)

電気文化会館5階ギャラリー

電気文化会館は、名古屋市の中心に位置し、世界デザイン会議の分科会の会場となります。

1スペースの大きさ：横90cm×縦2m40cm×奥行10cm以内

総重量：5kg以内

1人あるいは1団体、1スペースに限ります。

出展数：200点(先着順)

出展料：10,000円

パソコン通信会議

世界デザイン会議のイベントの1つとして、時間と距離を超えたパソコン通信によるネットワーク会議を行います。情報化時代のデザイン会議にふさわしく、会議の前から自由に意見を交わし、討議をしようという新しい試みです。どなたも自由に参加できます。参加希望者あるいはご関心のある方は添付の申込書でお申込みください。パソコン通信会議に関する資料をお送りします。(参加登録料3,000円が必要です。登録料の支払い及び参加方法については、パソコン通信に関する資料「ニフティー・サーブ、イントロパック」に従ってください。)

ホームステイ

海外からの世界デザイン会議参加者に、日本の家庭生活を体験する機会を提供し、一般市民レベルの国際交流の輪を広げようとホームステイを行います。

このホストファミリーは名古屋市内または名古屋市近郊在住のデザイナー(デザインに関心を持つ方々を含む。)を中心とした約100家族です。

同伴者プログラム／エクスカーショ

同伴者プログラム

同伴者プログラムは、登録された同伴者だけが参加できます。別添の申込書でお申込みください。

世界デザイン博覧会自由見学 (LP-1)

10月18日(水) 午前

訪問先：世界デザイン博覧会

名古屋城、白鳥、名古屋港の3会場それぞれに「歴史からの祭典」「21世紀との遭遇」「楽しさへの旅立ち」のテーマがあります。豊かな創造性あふれるデザインとの出会いをお楽しみください。

歌舞伎鑑賞 “第25回吉例顔見世” (LP-2)

10月18日(水) 10:00~15:30

訪問先：御園座

日本東西の名歌舞伎役者による秋の特別公演 “第25回吉例顔見世” を、名古屋の伝統ある御園座で鑑賞していただきます。

日本のクラフトデザインに触れる (LP-3)

10月19日(木)

訪問先：Aコース 瀬戸焼 (愛知県陶磁資料館)

Bコース 七宝焼 (七宝町産業会館、木曾三川公園)

Aコースでは瀬戸焼絵付けに、Bコースでは七宝焼絵付けにそれぞれ挑戦していただきます。なお、七宝焼の作品は当日お渡しできますが、瀬戸焼は工程上、21日午前中にお渡しすることになります。

日本の文化とコミュニケーションPart I (LP-4)

10月20日(金)

訪問先：Aコース きもの着付けと華道・茶道

(東山ガーデン、東山植物園)

Bコース 小原和紙すき見学・実習

(小原村工芸館、三州足助屋敷)

Aコースでは、きもの着付けを体験、生け花の美を鑑賞していただき、

Bコースでは、名古屋近郊の伝統産業の和紙すきを学びます。

日本の文化とコミュニケーションPart II (LP-5)

10月21日(土) 午前

訪問先：Aコース 有松・鳴海絞り見学・実習

(有松・鳴海絞り会館、井桁屋服部邸・竹田邸)

Bコース 寿司教室と書道教室 (クラブ東海)

Aコースでは、伝統ある有松・鳴海絞りに、Bコースでは、お寿司・書道に挑戦します。

市内ショッピング (LP-6)

10月21日(土) 午後

訪問先：大須アメ横、ウォッチマン、他

名古屋のデイスカウトショップ街でショッピングを楽しんでいただきます。

エクスカーショ

10月20日(金) 参加費：3,000円

会議参加者のために特別ツアーを行いますので、ふるって参加してください。申込みは「宿泊・エクスカーショ・ツアー申込書」でお申込みください。なお、いずれのコースも最低実施人員は30人です。これに満たない場合は中止され、他コースにご参加をお願いすることがありますのでご了承ください。

セラミックコース I (MT-1)

訪問先：Aコース 鳴海製陶(株)、瀬戸陶芸作家工房 (加藤舜陶、加藤鋤)、赤津焼会館

Bコース 鳴海製陶(株)、大東三進(株)、赤津焼会館

高級陶磁器のオートメーション化された製造工程を見学、そして対照的な伝統陶芸技術を作家と話しながら、ご覧いただけます。

セラミックコース II (MT-2)

訪問先：(株) INAX、盛田(株)

建築の装飾用陶磁器のトップメーカーを訪問、創業以来保存されてきたテラコッタやタイルを見学し、建築の歴史を思いめぐらせてください。そして、日本古来からの醤油、清酒作りをご覧いただけます。

セラミックコース III (MT-3)

1泊コース

訪問先：石川県立九谷焼研修所、ホームステイ

五彩豊かな九谷焼の上絵付けを実習するとともに、加賀の伝統的作家と語りホームステイをしていただきます。

エクスカーション／ポストコングレスツアー

トラディショナル クラフトコース (MT-4)

訪問先：Aコース 徳川美術館、名古屋仏壇
Bコース 徳川美術館、名古屋友禅

徳川美術館では尾張徳川家ゆかりの古美術品を鑑賞していただき、Aコースでは、仏壇製造工程を、Bコースでは、名古屋友禅の制作工程を見学します。

テキスタイルコース (MT-5)

訪問先：愛知県尾張繊維技術センター、一宮ファッションデザインセンター

日本最大の繊維総合産地である尾張一宮を訪ね、テキスタイルデザインの施設、イベントを見学していただきます。

ヒューマンライフコース (MT-6)

訪問先：刈谷木材工業(株)、山本鬼瓦工業(株)
カリモクの名で有名な日本を代表する家具メーカーを訪問、そして、地場産業の三州瓦、職人芸の精巧な技術を見せる鬼瓦づくりをご覧ください。

ヒストリーコース (MT-7)

訪問先：犬山城、茶室如庵、田県神社、大県神社
日本最古の平山城である犬山城天守閣から、木曾川・御岳・鈴鹿山系・濃尾平野をお楽しみください。また、豊作を祈願して男女のシンボルをまつる珍しい神社をご紹介します。

ミュージアムコース I (MT-8)

訪問先：明治村
移築復元された55戸の建造物を通して、西洋文化を積極的に取り入れた明治時代の躍動・生活様式に触れ、タイムスリップをお楽しみください。

ミュージアムコース II (MT-9)

訪問先：リトルワールド
123万㎡の広大な敷地に世界から集められた民家の野外民族博物館を、お楽しみください。

デザインコンチェルトコース (MT-10)

訪問先：熱田神宮能楽殿「浅芽ヶ宿」、宝物殿

日本の伝統的能楽に西洋音楽の声楽を合わせた、新しい芸術をお楽しみください。熱田神宮宝物殿では、日本古代の文様を鑑賞します。

インダストリーコース I (MT-11)

訪問先：Aコース トヨタ自動車(株)本社工場
Bコース トヨタ博物館

Aコースでは世界の人々に愛される、くるまづくりを目指す、トヨタ自動車の本社工場を見学します。またBコースでは4月16日にオープンしたトヨタ博物館で欧米の歴史的名車やトヨタ車のほか、国産車の体系的な展示をご覧ください。

インダストリーコース II (MT-12)

訪問先：ブラザー工業(株)、知多市民俗資料館
電子タイプライターで有名なブラザー工業の本社工場を見学し、知多市民俗資料館では、日本の木綿生産用具と漁労具を展示する生きた資料館をご覧ください。

インダストリーコース III (MT-13)

1日コース

訪問先：ヤマハ(株)、日本車輛製造(株)、龍潭寺
ピアノ生産世界一のヤマハ、新幹線をはじめ世界中で走る鉄道車輛を生産する日本車輛を見学していただきます。

ポストコングレスツアー

会議参加者のための興味ある訪問先を選んだ特別ツアーを行います。国内外の参加者が交流できるよい機会です。ふるってご参加ください。参加希望の方は「宿泊・エクスカーション・ツアー申込書」でお申込みください。なお、申込みが最低実施人員に満たない場合は、中止されますのでご了承ください。このツアーの実施はJTB日本交通公社が行います。出発日：10月22日(日)

1日コース (貸切バス名古屋発着、最低実施人員30名)

国際陶磁器フェスティバル美濃 89 (OP-1)

※帰路：名古屋空港立寄 JR名古屋駅解散

費用：3,500円 募集人員200名

訪問先：国際陶磁器フェスティバル美濃 89

陶磁器の街「多治見」で行われる「国際陶磁器フェスティバル美濃89」を見学します。3年に一度、世界34ヶ国からの陶磁器デザイナー・陶芸作家が優秀な作品を競い合う陶磁器の祭典を充分にお楽しみください。

1泊2日コース (貸切バス名古屋発着、最低実施人員30名)

トラディショナルジャパンツアー「飛騨高山」 (OP-2)

費用：30,000円

訪問先：飛騨産業㈱、岐阜県立高山工芸試験場、白川郷合掌の里、他

“小京都”高山を訪れ、そこに伝えられてきた木工産業や伝統的な民家群を訪れます。

宿泊：高山市内旅館 (4人1部屋)

マスプロダクションツアー「浜名湖」 (OP-3) 費用：30,000円

訪問先：鈴木自動車工業㈱、龍潭寺、フラワーパーク、他
浜松はオートバイの街とも呼ばれます。鈴木自動車でもオートバイと自動車工場を見学し、近郊の史跡をたずねます。

宿泊：館山寺温泉旅館 (4人1部屋)

ニューメディアツアー「東京」 (OP-4) 費用：40,000円

※往路：JR新幹線・名古屋駅発

※帰路：成田空港立寄 JR東京駅解散

訪問先：大日本印刷㈱、NHK放送博物館、放送センター、秋葉原、他

ニューメディア最先端の大日本印刷、世界一を誇るNHK放送センター、そして世界に知られた電器製品のショッピングセンター“アキハバラ”を訪ねます。

宿泊：東京都内ホテル (ツインルーム)

国際陶磁器フェスティバル美濃89 プラス 犬山 (OP-5)

費用：37,000円

※帰路：名古屋空港立寄 JR名古屋駅解散

訪問先：国際陶磁器フェスティバル美濃89、瑞浪陶磁器資料館、日本ライン下り、成田山、お菓子の城、他

陶磁器の街「多治見」で行われる「国際陶磁器フェスティバル美濃89」を見学した後、日本の伝統的陶磁器をコレクションする瑞浪陶磁器資料館を訪れ、名所として知られる日本ラインを舟で下ります。

宿泊：犬山市内ホテル (ツインルーム)

京都・奈良ツアー (OP-6) 費用：41,000円

※帰路：大阪空港立寄 JR新大阪駅解散

訪問先：京都ハンディクラフトセンター、西陣織会館、金閣寺、東大寺、他

日本の古都、京都と奈良を訪れるツアーです。金閣寺、東大寺などの有名な寺院のほか、長い間にはぐまれた伝統産業も見学します。

宿泊：京都市内ホテル (ツインルーム)

伊勢パールツアー (OP-7) 費用：39,000円

訪問先：ミキモト真珠島、伊勢神宮内宮、鳥羽水族館、他

日本建築の原点といわれる伊勢神宮と真珠のふる里を訪ね、美しい志摩の海岸美を楽しむコースです。

宿泊：鳥羽市内ホテル (ツインルーム)

北陸金沢ツアー (OP-8) 費用：31,000円

訪問先：加賀友禅館、兼六園、能登半島、和倉温泉、他

歴史の街、金沢に残る友禅、陶器など多くの伝統産業、日本三大名園の一つ“兼六園”、そして和倉温泉を訪ねます。

宿泊：和倉温泉旅館 (4人1部屋)

2泊3日コース (最低実施人員30名)

ハイテクデザインツアー「大阪」 (OP-9) 費用：30,000円

往路：近鉄・名古屋駅発

帰路：3日目、朝、なにわ会館解散

訪問先：松下パナソニックスクエア、シャープ㈱又は産業デザイン研究センター、他

日本の最先端技術の現場見学、大阪のバイタリティーを体感していただきます。また、アジアデザインを考えるデザインセミナー、デザイナー交流サロンでデザイナー・企業の交流のためのミーティングを行います。

宿泊：なにわ会館 (ツインルーム)

東京ディズニーランド プラス 日光 (OP-10)

費用：85,000円

往路：JR新幹線・名古屋駅発

帰路：成田空港解散

訪問先：鬼怒川温泉、華厳の滝、日光東照宮、東京ディズニーランド、他

東京ディズニーランドで新しいレジャー施設を見学し、もう一つの日本美、桃山美術の典型、日光東照宮を訪れます。宿泊は渓谷の美しい鬼怒川温泉です。

宿泊：鬼怒川温泉旅館 (4人1部屋)

東京都内ホテル (ツインルーム)

岡山・姫路・神戸ツアー（OP-11）

費用：50,000円

往路：ホテル発（貸切バス）

帰路：大阪空港解散

訪問先：日本の名城「姫路城」、三大名園の一つ「後楽園」、そして昔の日本の街並を残す倉敷、ファッションナブルな街神戸を訪ねます。

宿泊：赤穂御前温泉旅館（4人1部屋）

岡山市内ホテル（ツインルーム）

エクスカーション・ツアーについてのご案内

- 各ツアー1コースの参加人員は最高45名までです。参加予約は先着順で受け付けいたします。なお、申込みの人員が30名に満たない場合、そのコースの実施は中止させていただきますので、予めご了承ください。
- 各ツアーの参加料金は1989年1月現在のものです。
- 個室、一人部屋追加料金はJTB日本交通公社にご連絡ご確認ください。
- 消費税は参加料金に含まれています。

開会式、閉会式、分科会

開会式、閉会式は白鳥センチュリープラザ、分科会は白鳥センチュリープラザ、名古屋市科学館、電気文化会館で行われます。各会場間には連絡バスが運行されます。

開会式、閉会式、プラネットⅠ～Ⅲ

白鳥センチュリープラザ

プラネットⅣ 名古屋市科学館

プラネットⅤ～Ⅶ 電気文化会館

展示／セミナー

世界デザイン博覧会（名古屋城会場、白鳥会場、名古屋港会場）

パーソナルプレゼンテーション 電気文化会館

世界のグレートデザイン展 愛知県美術館

市民フォーラム 愛知文化講堂

'89ソーラー・カー・グランプリ入賞作品展

愛知県産業貿易館

レセプション

ウェルカムパーティ 白鳥センチュリープラザ

公式レセプション ホテルナゴヤキャッスル 天守の間

さよならパーティ 世界デザイン博覧会名古屋城会場
本丸ステージ他

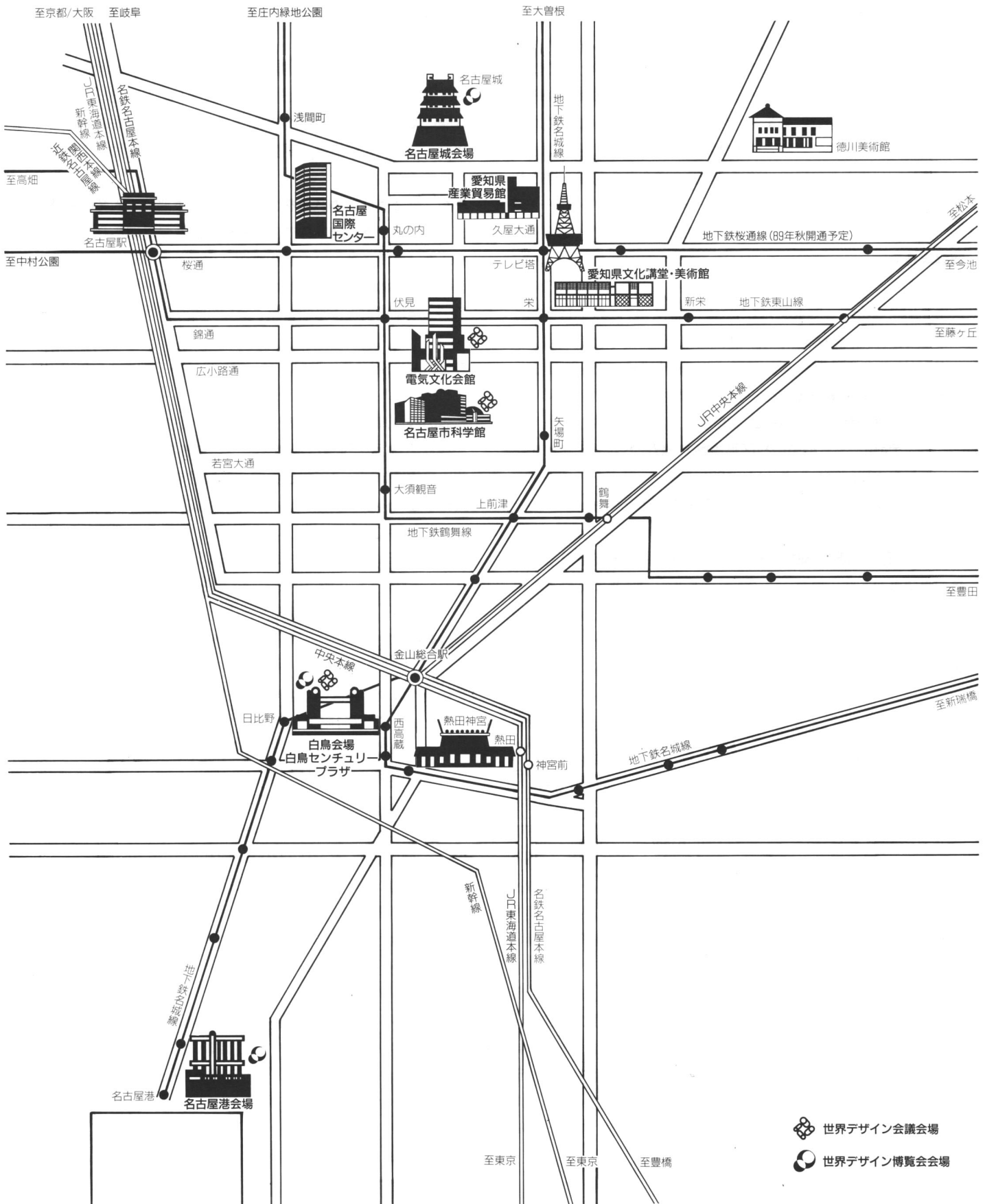
ホームステイ・オリエンテーション



名古屋国際センター ホール

会議開催中のサービス

世界デザイン会議のメイン会場となる白鳥センチュリープラザ1階アトリウムに、郵便業務、旅行やホテル案内、航空案内のカウンターを設ける予定です。

そのほか、コピー・サービス（白黒及びカラー）を行います。



 世界デザイン会議会場
 世界デザイン博覧会会場

登録

この会議は、参加希望の方はどなたでもご参加いただけます。
参加者の登録費用には、すべてのプログラムとレセプション（一部有料）への参加費が含まれています。また、同伴者として登録されると、開会式、閉会式、レセプション（一部有料）や同伴者プログラムに参加できますが、分科会プログラムとエクスカーションには参加することはできません。
参加者、同伴者ともに世界デザイン博覧会に会議期間中無料で入場することができます。

登録申込み

会議参加希望者は、同封の登録申込書 (Form A) に必要事項を記入のうえ、下記の登録事務局あてお送りください。参加者1人につき各1枚の登録申込書が必要です。申込書の追加等ご希望がございましたら、登録事務局までお申込みください。

送り先：世界デザイン会議登録事務局

〒450 名古屋市中村区那古野1-47-1

名古屋国際センタービル19階

日本コンベンションサービス株式会社

名古屋支店内

TEL : 052-581-3825 / FAX : 052-581-3810

参加希望者が多数の場合はおことわりすることがありますので、お早くご登録いただきますようお願いいたします。

登録費

区分	7月31日以前**	9月30日以前**	10月1日以降	
参加者	一般	¥50,000	¥55,000	¥60,000
	学生*	¥25,000	¥28,000	¥30,000
同伴者	¥25,000	¥28,000	¥30,000	
さよならパーティ	¥3,000			

* 学生の方は、在学証明書のコピー等を登録申込書に添付してください。

** 銀行振込依頼日をもって基準とします。

送金方法

登録費はすべて銀行振込でお願いいたします。

同封の振込依頼票で、次の銀行口座へお振込みください。

銀行名：東海銀行 本店

口座名：世界デザイン会議運営会

口座番号：普通預金 1654066

なお、振込金受領書のコピーを登録申込書 (Form A) とともに登録事務局までお送りください。

登録確認証

事務局では、登録申込書を受けつけ、登録費の入金が確認された後、登録番号の記入された登録確認証をお送りいたします。

登録に関するお問合せ等の際には、この登録番号をお知らせください。なお、この登録確認証は会議当日、登録受付デスクに必ずご持参ください。

また、会議直前に申込みをされた場合、事務局で入金の確認ができないことがありますので、登録確認証を受け取られていない方は、振込金受領書を、登録受付デスクにご持参ください。なお、登録確認証の提示がなされないときは、世界デザイン博覧会会場への入場は有料となります。

登録の取り消し

登録の取り消しは、文書で登録事務局へお知らせください。文書が登録事務局に到着した日をもって登録の取り消しをいたします。登録費の返金は、登録の取り消し日を基準に次のように、会議終了後行います。

6月30日以前…………… 入金額の90%を返金

8月31日以前…………… 入金額の50%を返金

9月1日以降…………… 返金なし

登録受付デスク

登録受付は次の時間帯に世界デザイン博覧会白鳥会場内の白鳥セントジュリープラザ1階アトリウムにて行います。

10月17日(火) 11:00~18:00

10月18日(水) 11:00~17:00

10月19日(木) 8:00~17:00

10月20日(金) 8:00~17:00

10月21日(土) 8:00~12:00

宿泊ホテル・エクスカージョン・ツアーの申込み

ホテル予約・エクスカージョン・ツアー参加ご希望の方は、同封の申込書 (Form B) に必要事項をご記入の上、1989年9月14日迄に世界デザイン会議登録事務局あてお送りください。

なお、エクスカージョン・ツアーの内容については、13~16ページをご参照ください。また、申込みに対し通信事務費として別途400円をいただきます。

お支払い方法

申込書到着次第、宿泊予約券、またはエクスカージョン・ツアー参加券と各費用の請求書をJTB日本交通公社よりお送りいたします。請求書到着後、下記の口座へ9月末日迄にお振込みください。

なお、トラブルを避けるため、振込用紙コピーを会議登録の際、必ずご持参下さい。

申込書送り先	世界デザイン会議登録事務局 〒450 名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センタービル19階 日本コンベンションサービス(株)名古屋支店内
振込み先	銀行名：東京銀行名古屋支店 口座名：(株)日本交通公社団体旅行錦支店 口座番号：普通預金 0043214

キャンセル料について

宿泊費

宿泊予定日より20日前迄の取消……………無 料
 宿泊予定日より19日前~10日前迄の取消……………部屋代の10%
 宿泊予定日より9日前~5日前迄の取消……………部屋代の20%
 宿泊予定日より4日前~前日迄の取消……………部屋代の50%
 当日の取消……………全 額

ツアー費

催行日より14日前迄の取消……………無 料
 催行日より13日前~7日迄の取消……………ツアー料金の10%
 催行日より6日前~3日前迄の取消……………ツアー料金の20%
 催行日より2日前~前日迄の取消……………ツアー料金の30%
 当日の取消……………全 額

宿泊料金 (1室あたり税金・サービス料込み)

A _____

シングル 10,000円~15,000円
 ツイン 19,000円~20,000円
 名古屋観光ホテル・ホテルナゴヤキャッスル
 名古屋東急ホテル・名古屋国際ホテル
 名古屋ヒルトンインターナショナル

B _____

シングル 7,000円~9,500円
 ツイン 12,000円~17,000円
 名鉄グランドホテル・名鉄ニューグランドホテル
 名古屋都ホテル・ホテルナゴヤキャッスルプラザ
 名古屋不二パークホテル・名古屋第一ホテル
 名古屋ターミナルホテル・名古屋栄東急イン
 プリンセスガーデンホテル・ホテルサンルート名古屋
 ホテルライオンズプラザ名古屋
 名古屋第2ワシントンホテル

C _____

シングル 5,800円~ 6,600円
 ツイン 9,700円~11,000円
 名古屋丸の内東急イン・サンハイツホテル名古屋
 ライオンズホテル名古屋・パークサイドホテル
 KKR名古屋三の丸

D _____

シングル 4,700円~5,600円
 ツイン 6,400円~8,800円
 ホテルキヨシ名古屋・なごやサンプラザ
 ちからまち会館 (和室6畳、8畳のみ)^{*}

E _____

洋室4人部屋 (2段ベッド) }
 ツイン } 1,780円
 和室 (3~4人用) }
 名古屋ユースホステル^{*}

※バス、トイレは部屋の外になります。
 消費税は宿泊料金に含まれます。

問合わせ先

JTB日本交通公社 錦支店

(運輸大臣登録一般旅行業第64号)

〒460 名古屋市中区錦3-4-6 東海第一ビル10階

TEL 052-961-7161 / FAX 052-971-1971

担当 石原、長谷川 (旅行業務取扱主任者酒井靖夫)



デザインイヤーの趣旨

'89デザインイヤー運動は、「デザイン」を通じて新しい時代における生活と産業、ひいては文化のあり方を、国民各分野で問い直そうとする運動です。

デザインイヤーでは、

- ①デザインを通じて国民生活の質的向上を図る
- ②デザインを通じて地域活性化を図る
- ③デザインを通じて産業の高度化を図る
- ④デザインを通じて国際社会に貢献する

活動が展開されます。

そして、1990年代におけるデザインのインフラストラクチュアを整備することがデザインイヤー運動の中で考える大きな課題です。

デザインイヤーの推進組織

'89デザインイヤー運動の推進母体として、国民各分野（経済、社会、技術、文化、地域、デザイン等）のデザインマインド豊かな有識者からなるデザインイヤーフォーラムが組織され、デザインイヤー運動の推進母体となります。

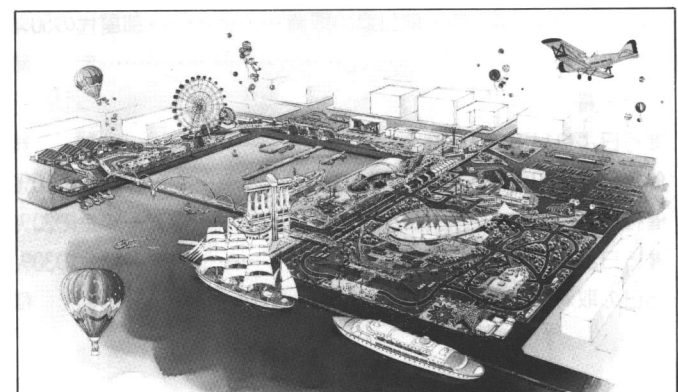
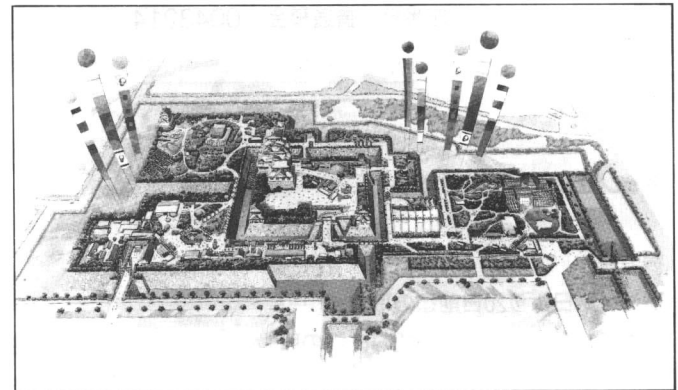
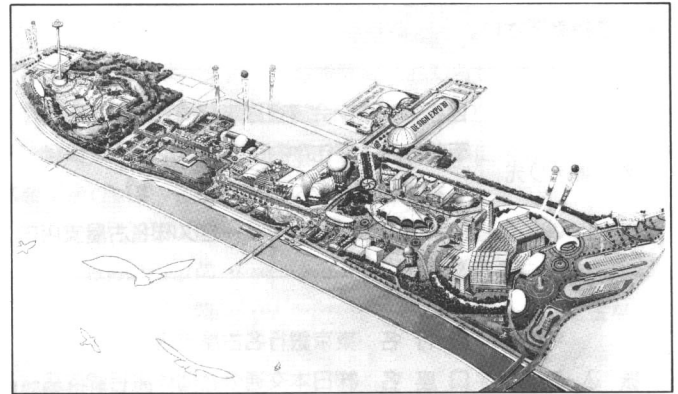
デザインイヤーフォーラムは、次の活動を行います。

- ①'89デザインイヤーを主唱します。
- ②'89デザインイヤー運動の中で行われる諸事業を総括します。
- ③「日本デザイン賞」「地域ワークショップ」等を直接主催します。
- ④'89デザインイヤー参加事業を登録します。
- ⑤デザインイヤーフォーラムのメンバーを中心に、独自の活動（デザインイヤー記念出版等）を展開し、デザインを通じて解決すべきさまざまな課題を提示、提案します。
- ⑥'89デザインイヤーの終了に際し、運動の総括的評価を行います。

世界デザイン会議の開催都市名古屋では、あわせて世界デザイン博覧会が開かれます。デザインをテーマとして博覧会が開かれるのは世界でもはじめてのことです。

博覧会は白鳥、名古屋城、名古屋港の三つの会場で約56haのスペースに展開されます。会場にはテーマ館（白鳥会場）はじめ、24の各企業の出展するパビリオンがさまざまな視点からデザインをとりあげ、未来への提案を行います。また白鳥会場の外国館は10,000㎡の日本最大の木造構築物で、ここには15か国（1地域）21団体が出品し、現代の世界のデザインを目の当たりにすることができます。

テーマ ひと・夢・デザイン——都市が奏でるシンフォニー
会期 1989年7月15日—11月26日 135日間



デザインイベント

世界デザイン会議開催中および、その前後に各地でも数多くのデザイン関連イベントが開かれます。主なものは次のとおりです。

名古屋市百周年記念特別展「日本の古典」※

会場 名古屋市博物館（名古屋市）

会期 9月23日～10月22日

日本の意匠※

会場 徳川美術館（名古屋市）

会期 9月23日～11月12日

ドラクロワとロマン派展※

会場 名古屋市美術館（名古屋市）

会期 10月10日～11月26日

バウハウスとウルム造形展

会場 愛知県産業貿易館（名古屋市）

会期 10月12日～11月4日

国際陶磁器フェスティバル美濃'89※

会場 多治見市総合体育館第一・第二競技場（多治見市）

会期 10月23日～11月5日

ICSIDインターデザインセミナー'89富山

会場 高岡文化ホール（高岡市）

会期 10月1日～10月16日

ジャパクラフト・フェスティバル・イン盛岡

会場 川徳デパート（盛岡市）・盛岡手づくり村

会期 10月7日～10月15日

日本文化デザイン会議'89千葉・幕張※

会場 幕張メッセ（千葉市）

会期 10月12日～10月14日

東京モーターショー※

会場 幕張メッセ（千葉市）

会期 10月27日～11月6日

※有料

世界デザイン会議の運営組織

主催

世界デザイン会議運営会
(構成団体)
(財)日本産業デザイン振興会
(社)日本インダストリアルデザイナー協会
(社)日本インテリアデザイナー協会
(社)日本クラフトデザイン協会
(社)日本パッケージデザイン協会
(社)日本グラフィックデザイナー協会
(社)日本ジュウリーデザイナー協会
愛知県
名古屋市
名古屋商工会議所
中部経済連合会

後援 (申請中を含む)

通商産業省
建設省
運輸省
郵政省
文化庁
外務省
自治省
全国知事会
全国市長会
全国町村会

特別協力

(財)世界デザイン博覧会協会

協力

印刷工業会
(社)経済団体連合会
(社)国際家具産業振興会
(財)国際デザイン交流協会
(社)新日本建築家協会
(財)生活用品振興センター
全国商工会連合会
全国商店街振興組合連合会
全国中小企業団体中央会
(社)全日本広告連盟
中部クリエイターズクラブ
通信機械工業会
(財)日本機械デザインセンター
(社)日本軽工業品団体連合会
(社)日本建築協会
(社)日本建築士会連合会
(社)日本建築士事務所協会連合会
(社)日本広告業協会
日本広告写真家協会
日本サイン・デザイン協会
(社)日本自動車工業会
(社)日本事務機械工業会
日本写真機工業会
(社)日本商環境設計家協会
日本商工会議所
(財)日本消費者協会
(社)日本照明器具工業会
(社)日本新聞協会
日本タイポグラフィ協会
中部デザイン協会
(社)日本ディスプレイ業団体連合会
日本ディスプレイデザイン協会
(社)日本デザイナークラブ
(社)日本電機工業会
(社)日本電子機械工業会
日本陶業連盟
(財)日本陶磁器意匠センター
日本陶磁器デザイナー連盟
日本百貨店協会
日本貿易振興会
日本放送協会
(社)日本マーケティング協会
(社)日本民間放送連盟
(社)日本流行色協会 (50音順)

特別協賛

ブラザー工業株
株 INAX

協賛

(株)第一紙行
中部電力(株)
(株)東海銀行
東邦ガス(株)
トヨタ自動車株
トヨタ車体(株)
豊田合成(株)
(財)名古屋輸入博記念財団
日本航空(株)
(株)日本交通公社
日本電装(株)
(株)松坂屋
名鉄観光サービス(株)
(株)名鉄グランドホテル (50音順)

推進

世界デザイン会議運営会実行委員会

組織代表

世界デザイン会議運営会 会長 竹田弘太郎
世界デザイン会議運営会 実行委員長 諸星 和夫

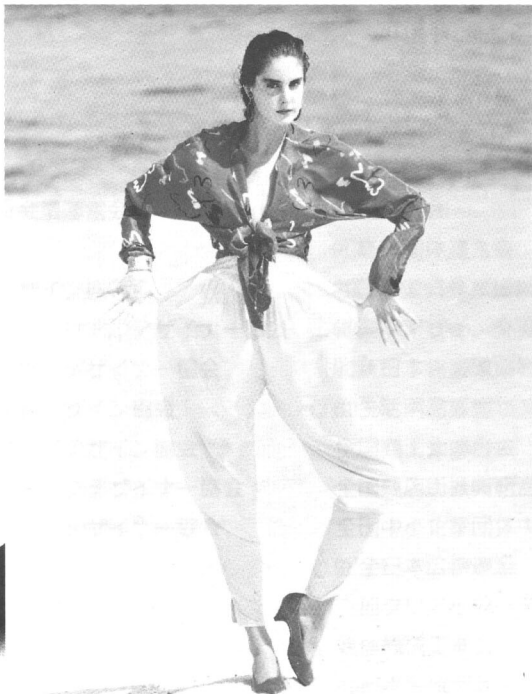
事務局

世界デザイン会議運営会事務局
事務局長 木村 一男
〒460 名古屋市中区栄二丁目10-19
(名古屋商工会議所ビル5階)
TEL 052-202-1100/FAX 052-201-0089

107107

brother

ブラザーの技術力が今、
ハイカラー・カラーと低コストを実現しました。



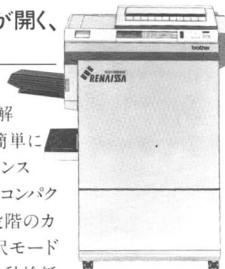
とうとう、オフィス価格。

フルカラー複写機
RENAISSA

「ルネッサ」
本体価格850,000円

いま、カラー・コミュニケーション時代の幕が開く、
フルカラー複写機、ルネッサ。

<5つの特長>①本体価格85万円、ランニングコスト75円のハイ・コストパフォーマンス②連続階調、解像度10本/mmのビューティフル・コピー③だれでも簡単に扱えるイーザーオペレーション④めんどうなメンテナンス不要のイーザーメンテナンス⑤設置面積0.36㎡のコンパクトボディ。<諸機能>●5段階の複写倍率●各色7段階のカラー調整●7段階の濃度調整●写真モード●光沢モード●OHPモード●自己診断機能●カセット方式の自動給紙



■資料請求及びお問い合わせは

ブラザー工業株式会社 画像システム事業部
名古屋市瑞穂区堀田通9-35 〒467 TEL: (052) 824-2555



応援します。

ブラザーは“'89デザイナー”“世界デザイン博覧会”に協賛するとともに“世界デザイン会議 '89名古屋”のオフィシャルスポンサーとして支援します。

SUPPORT

Brother is proud to support World Design Exposition '89 and ICSID '89 Nagoya as an official sponsor.

INAX

人・間・空・間 たいせつに



暮らしへ、住まいへ、都市へ…

私たちは、タイル、住宅設備機器などを通して、人々に密接にふれあいながら、うるおいのあるアメニティ環境づくりを描いてきました。その基本理念は、すぐれた品質・性能と選択性に富んだ製品・システム構成によって、人々の価値観とライフスタイルの多様性に応え、親しみの美にあふれた生活環境を形づくることです。肌がふれあう身近な暮らしの場面に、住まいに、都市に、多彩な生活デザイン素材によって、生き生きとした生活文化を形づくる「ライブ・デザインング」。INAXの進める環境づくりです。

株式会社 INAX

本社・愛知県常滑市鯉江本町3丁目6番地
TEL<05693>5-2700代 FAX<05693>4-3898



名古屋発海外へは、 日本航空で。

ハワイ、シンガポール、バンコク、香港、ソウルへは直行便で。また成田経由で世界へ。
名古屋からのご出発は、快適な日本航空で。ビジネスに、観光に、ぜひご利用ください。

●お問合せは、お近くの日本航空までどうぞ。/ 名古屋(052)563-4141 / 東京・(03)457-1111 / 大阪・(06)203-1212 / 京都・(075)231-2011

JTBは、ツアーコンポーザーとしての実績を背景に、コミュニケーションシステムオーガナイザーとしてサポートしてまいります。



日本交通公社

団体旅行錦支店
〒460 名古屋市中区錦3-4-6
東海第一生命ビル10階
TEL: 052-961-5713 (専用)
TEL: 052-961-7161 (代表)
FAX: 052-971-1971

For Your Travelife

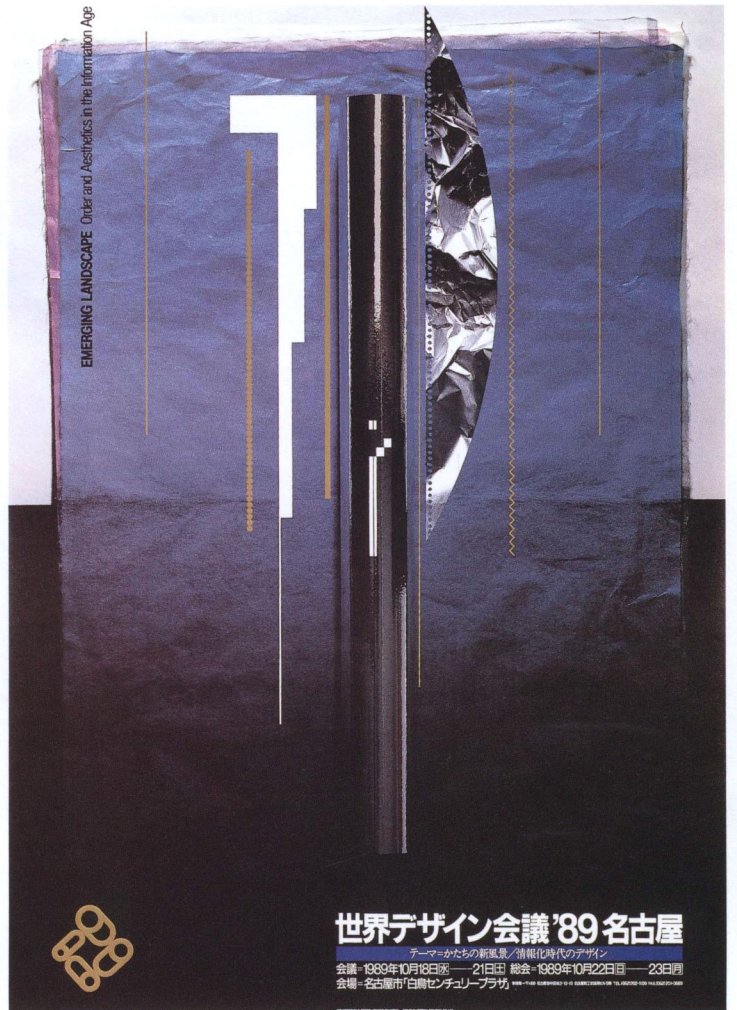
国内・海外職場旅行やディーラーへのインセンティブ旅行、研修、視察旅行。あるいは、創業記念行事・式典、新製品発表会、スポーツ大会、パーティ、展示会、フェスティバルなど一連の業務のプランニングから調達、オペレーション、クリアランスまでの一切がっさいをJTBとそのグループ企業9社で構成するプロジェクトチーム(リライアブル)があなたにかわってお引き受けします。

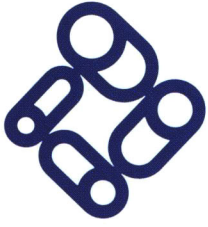
世界デザイン会議運営会事務局

〒460 名古屋市中区栄二丁目10-19 (名古屋商工会議所ビル5階)

TEL 052-202-1100 / FAX 052-201-0089

世界デザイン会議公式ポスター(国内向)





世界デザイン会議運営会

事務局=〒460 名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル5階 TEL.(052)202-1100 FAX.(052)201-0089



デザイナー参加事業